

都留文科大学  
同窓会報

第36号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局  
責任者 鈴木 守  
山梨県都留市田原3-8-1  
☎ 0554-43-4341



「道の駅つる」と「リニア見学センター（左上）」



宮城県支部とのコラボ企画「牡蠣祭り」

同窓會  
都留文科大学

# 世代を超えた、 つながりの文大!!!

都留文科大学同窓会会長  
**加藤 一雄**



都留市人口 30,935 人 (H29.11.30 現在) を上回る同窓会員の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会発展のためにお力添えをいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

平成 29 年 4 月 22 日 (土) には同窓会理事会の後に「同窓生と在學生との懇話会」(教師を志す学生対象)が行われ、各自治体の同窓生が地域の実情の話や教採対策をしてくださいました。5 月 13 日 (土) の「模擬面接試験体験会」では、学生による集団面接、集団討論、模擬授業に対して教育長や指導主事、校長を経験した方が適切なアドバイスをしてくださいました。また、各自治体による独自の教採学習会も開催され、つながりを大事にしてくれています。さらに今年は 2 年に 1 回の「総会」が 8 月 5 日 (土) に開かれ、懇親会では、横内理事長、福田学長ご参加のもと、元参議院副議長 興石 東様もご出席くださり、合唱団の歌声を楽しみながら懇親を深めました。なお、宮城県支部は、バスをチャーターして多人数で参加してくださいました。

今年度、東京支部総会、長野県支部総会、石川県支部総会、神奈川県支部(飛翔の会)総会に出席させていただきました。どの支部においても、教育を受けた

年代は違っていますが、下宿や教えをいただいた先生方の名前、サークル、アルバイト等の話をすると、どこか繋がっていると思えました。懇親会では、もちろん学生歌「花のかげ」を歌いましたが、長野県では「武田節」を出席者全員で声高らかに歌いました。また、神奈川県支部では、若い方の出席が多くあり、日頃の授業で頑張っている様子の報告がありました。どの支部においても、諸先輩や後輩の大学への熱い思いに触れ、都留文科大学及び同窓会の今後の発展を確信いたしました。さて、私事ですが、平成 29 年 3 月に都留文科大学附属小学校を最後に 38 年間の教員生活にピリオドを打ちました。4 月から文大の「キャリア支援センター・就職アドバイザー」として教採対策に従事させていただいています。受かった学生には、お世話になった方にお礼の連絡を入れるように話をしています。

現在、同窓会は全国で 39 支部が設立されております。全国 47 都道府県の全てに支部が設立されるまで、今一步のところとなりました。我が都留文科大学同窓会員は全国 47 都道府県に在住し、地域や各界で活躍し、全国的なつながりを持っております。その強みを生かし、同窓会の目的である「大学の発展への寄与」そして「会員相互の親睦」のさらなる実現に向けて、同窓会の知恵と力を結集した取組を行って参りたいと考えています。皆様方のご理解とご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

## 都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科
名誉会長	福田誠治	学長	群馬支部長	齋木雄造	S52国	鳥取支部長	古都英幸	S50英	顧問	岩間好久	S55初
会長	加藤一雄	S53初	埼玉支部長	西 敬	S56初	島根支部長	小藤 貢	S44初		内藤郁夫	S48国
副会長	桐井幸雄	S32初	千葉支部長	川名和則	S51英	岡山支部長	原田直樹	S45国		若林四郎	S31商
	杉中康平	S59初	東京支部長	松本多加志	S44初	広島支部長	小谷桂司	S44初		窪田芳博	S49初
	柏木精一	S57初	神奈川支部長	松下登志男	S41国	徳島支部長	小倉健司	S53英		奥脇隆樹	S45初
	鈴木 守	S55初	新潟支部長	池原栄一	S50初	愛媛支部長	谷川忠孝	S42初		小宮山尚	S58初
庶務会計	小幡哲明	S56国	富山支部長	高木要志男	S51初	高知支部長	前田志郎	S48初		奥秋順作	S31初
	河端雄一	S63初	石川支部長	西田良治	S49国	長崎支部長	平山繁壽	S44初		志村武男	S31商
	鈴木 卓	大学課長補佐	福井支部長	吉岡恒雄	S54初	熊本支部長	永田好文	S47初		後藤 敬	S33商
事務局長	渡辺正司	S63初	山梨支部長	千野文雄	S48英	宮崎支部長	取附義弘	S51初		佐藤唯一	S32初
事務局次長	浜欠亮吉	S39国	長野支部長	小林久通	S56初	鹿児島支部長	本田武久	S43国		佐藤英雄	S38国
	外川正純	S46英	岐阜支部長	山本吉朗	S40英	沖縄支部長	比嘉正夫	S53英		興石 東	S32初
監事	原田裕太	H 7初	静岡支部長	臼井 泰	S46国	北海道	山本洋嗣	S55国	山縣永良	S39国	
	淡野香百合	S39初	愛知支部長	長尾 隆	S56初	東北ブロック	鎌田 清	S47初	勝俣武男	S41初	
理事(支部長)	相川洋子	S52英	三重支部長	福田和幸	S45国	兵庫県	赤穂榮一	S40英	永田清一	S46国	
	北海道支部長	加藤佳栄	S55英	滋賀支部長	松嶋孝雄	S46初	山梨県	石井正己	S51初	小林孝次	S46英
	岩手支部長	小山田厚	S54国	京都支部長	柘谷雄三	S44初		一瀬英治	S46国	千野文雄	S48英
	宮城支部長	伊藤常治	S58英	大阪支部長	山本誠一	S54英		笹本忠彦	S62英	亀田孝夫	S51英
	山形支部長	佐藤英樹	S60初	兵庫支部長	渋谷訓生	S41英		小山田拓也	H 6初	原 喜雄	S53初
	福島支部長	大竹豊紀	S39初	奈良支部長	岡田善英	S45初		笠井正宏	H23院臨床教育		
	茨城支部長	長岡省一	S55英	和歌山支部長	前田 忠	S45初		廣瀬文武	S54英		

## 消えたアクティブ・ラーニング

都留文科大学学長

福田 誠治



たくさんのご支援を得て、この度、学長に再任されました。あと2年、皆様とともに大学をもり立てていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

さて、実に不思議な動きが起きている。日本においても2010年末から「アクティブ・ラーニング」と名の付く書物が出版され始め、2013年からは教育研究書や実践指導書などたくさんの書物が書店にあふれた。県レベルの教育委員会も教員の研修に乗り出し、教科ごとの教育雑誌にも現場からたくさんの実践が報告された。それが、2016年の7月の出版を最後に、突然、見事なほどに姿を消したのである。文部科学省の発言からもこの言葉は消えた。

同じようなことは、1999年春に始まる「ゆとり」教育批判でもわれわれは経験した。知育偏重、偏差値人間、個性のない日本人、深夜の塾通いなどさまざまな言葉で詰め込み教育は批判された。土曜日の授業を廃止し、親子で体験学習や問題解決学習に取り組むように奨励された。それが、突然、1999年1月から、子どもを甘やかす「ゆとり」教育と批判されるようになり、2002年からは「百マス計算」と名の付く出版が始まり、訓練的な教育がもてはやされるようになった。

この流れが変わるのは、2004年12月のピザ・ショックである。2003年に実施された国際生徒調査PISAの結果が2004年12月7日に公表され、読解力の国際順位が8位から14位へと二桁になったか

らである。その後、学力低下が大々的に報道され、「ゆとり」世代の若者は低学力というレッテルが貼られ、全国学力テストの復活が望まれるという流れになった。ところが、OECDが開発したPISAテストは、ちょっと風変わりなテストであった。記述式が多用され、中には正解すらはっきりしない自由記述(オープン・エンド)が許されるものまであった。要するに、OECDはこれまで何を学んだかではなく、これから何ができるかという、いわば「考える力」を測ろうとしたからである。

文科省は慎重に検討したあげく、2005年12月にPISA型読解力だけは日本の教育に取り入れる地平にたどり着いた。2006年1月に全国の都道府県並びに政令指定都市の指導主事を集め、PISA型読解力と日本の学習指導要領と擦り合わせることを告げ、国語だけでなく全教科でコミュニケーション力や表現力を重視して受信型の学力から表出型・発信型の学力へと転換することを決めた。ここに、伝統的教育をより強化して成果を上げようとするグループに対して、教育を改革して個性を重視し、より質の高い労働力を育てる方向に学校教育の舵を切ろうとするグループが文科省内にはっきりと姿を現すことになる。

2017年1月、当時の文部科学省事務次官の前川氏が退職に追い込まれた。理由は早稲田大学への天下り問題の監督責任であったが、なぜ文科省にだけ突然に問題が降ってきたのかがよくわからない、すっきりしない事件であった。しかも、官僚トップの事務次官が辞めさせられるということは、文部行政そのものの存在意義が問われていることになる。前川氏は、元次官山中伸一氏(都留市出身)の後を継ぐ改革派であった。とてつもない大きな力が、見えないところでぶつかっているのだろう。

## 次期公立大学法人都留文科大学学長候補者が決定しました。

公立大学法人都留文科大学学長選考会議は、現都留文科大学学長福田誠治の任期が平成30年3月31日をもって満了となることに伴い、平成29年12月20日、学長最終候補者(次期学長予定者)として次の者を決定し、現学長の福田誠治が再任されましたので、お知らせします。

氏名 福田 誠治

現職名 学長

任期 平成30年4月1日から平成32年3月31日

## 宮城県支部 同窓会の思い出

都留文科大学退官教授  
初等教育学科

柳 宏



28歳で都留文科大学初等教育学科講師として奉職して以来37年が経ちました。平成30年3月末をもって定年退職いたします。この間同窓会との直接の関わりは少なかったのですが、体育専攻卒業生やバレーボール部卒部生達の同窓会での活躍に触れる度、とても嬉しい気持ちになっていました。また同窓会の皆様による模擬面接をはじめとした教員採用対策のおかげで多くのゼミ生が教員としてスタートできたこと、大変感謝しております。

さて、直接同窓会と関わったことがあります。宮城県支部の同窓会に上杉陽先生(理科、現都留文科大学名誉教授)と寺川宏之先生(数学、現初等教育学科長)と共に参加しました。正確な日時は不明ですが、十数

年前の確か11月のことです。同窓会では懐かしい卒業生達と交流ができ楽しい時間を過ごすことができました。翌日は丁度「松島牡蠣祭り」が開催されており、鎌田先生の案内で松島へ向かいました。松島に近づくに従い、車はのろのろ状態、仕舞いには全く動かなくなっていました。駐車場が空かない限り動かないようなので「松島牡蠣祭り」を諦め、石巻へ向かうことになりました。牡蠣大好きの私にとっては大変残念なことです。暗い気持ちで石巻に向かう途中「牡蠣祭り」の幟を見付けました。会場へ行くと牡蠣を焼く香ばしい香りが満ちています。早速バケツいっぱい新鮮な牡蠣を買いました。U字溝の炭火で牡蠣を焼いていると地元漁師の方が、「日本酒を少し垂らした方が旨いぞ!あそこの売店でカップ酒を売っているから。」とアドバイスを貰いました。当日は雪がちらつく寒い日でしたが、牡蠣とカップ酒、私の掌より大きなホタテ貝のおかげで心も身体もホッカホカになりました。「旨かったあ〜!」一生心に残る素敵な思い出です。

定年を迎えましたが、新学科(学校教育学科)をもう少し手伝います。

同窓会のますますの発展を願っています。

## 都留文科大学で 中学校理科免許を

都留文科大学退官教授  
初等教育学科

中井 均



思い起こせば、私が最初に都留文科大学を訪れたのは大学院修士課程を修了したものの行き先がなく、東京でブラブラしていた昭和56年のことでした。私の前任の上杉陽名誉教授に「都留文科大学で非常勤講師をしないか」と声をかけていただき、先ずは大学を見てみようということでの訪問でした。当時まだ自然科学棟は完成しておらず、目立つ建物といえば、1号館と図書館(現在の4号館)、それに完成前の本部棟くらいでした。上杉先生の研究室は1号館の1階、現在の地図室にあり、地理学の和田先生と同室だったと記憶しています。以来36年、非常勤講師から専任教員へと立場を変えながら、これほど長く都留文科大学でお世話になるとは、正直なところ思いもしませんでした。

平成20年に上杉先生の後任として専任教授に採用された時、心の中で決意したことがあります。それは、定年までの10年間で「理科教室の悲願であった中学校教諭理科一種免許状を都留文科大学初等教育学科で出せるようにする」ことでした。

平成21年頃から理科教室内、初等教育学科内での準備を始め、平成25年には大学全体で形を整えるところまで話を進めることができたものの、結局この年は断念せざるをえませんでした。文部科学省の最終的な判断は「文学部で理科免許は出せない」「初等教育学科で中学校の免許は出せない」というものでした。その後、文学部初等教育学科を教養学部学校教育学科へと改編することと併せて、紆余曲折はあったものの、本年12月に来年度からの中学校理科教職課程の開設認可をうけることができました。定年の年に、ようやく、どうにか、中学校理科教職課程の認可を受けることができ、正直ホッとしているところです。もっとも中学校理科教職課程が認可されたとはいえ、安閑としていられるわけではありません。本学を含め、全国の教員養成課程を取り巻く状況には厳しいものがあります。ただ今後については、若い先生方をお願いする以外にありません。

同窓会の皆様にも応援をよろしく願います。

## 言語学と大学教員養成を 目指して

都留文科大学退官教授  
英文学科

今井 隆



専任講師として1982年に本学に着任してから35年が過ぎようとしています。私の専門は、チョムスキーの理論言語学で、その年は、5年に1度開かれる国際言語学者会議が8月東京で開かれた年で、一般部門とワークショップなど3つの口頭発表をしました。また、6月には、上智大学で日本言語学会大会でも口頭発表をするなど本学に着任して慣れないなか研究も多忙な年でした。そのような多忙な中、3、4年生の有志から前年に出版されたばかりのチョムスキーの著書Lectures on Government and Binding (Foris Publications)を読む会を依頼され、夏休みが始まったばかりの1週間やりました。その時参加した学生2人がのちに筑波大学大学院へ進学し、現在大学教授をしています。

本学は教員養成で有名であることは、着任する前から知っていました。小中高校の教員養成は、他の先生方に任せて、私は、大学の教員養成をしようと思っただけです。大学の教員養成も大事なことであるからです。その時から現在まで8人の教え子が全国の大学とアメリカの大学で教鞭と研究に従事しています。また、現在大学院に在学中、今年4月から大学院へ進むものもいます。そして、「孫弟子」もできて嬉しく思っています。

着任してから現在までに理論言語学は、理論が変遷していく現在は、生物言語学という生物学を基盤にする言語研究という超学際分野へ進化しました。本学も2号館、3号館、新図書館、国際教育学科棟もでき成長して来ました。さらに30年には、教養学部も増設され、31年度県合同庁舎も本学に移管されます。本学は、これからも発展し続けることが期待できます。

この間、世界はdiversity(多様性)を認める方向へ進んで来ました。様々な違いを認め合うことの重要性を若い人たちに教えていかなければいけないと思います。

## カーリー(女性支援の女神) クラブの仲間たちと共に

都留文科大学退官教授  
英文学科

### 大平 栄子



1990年に都留文科大学に着任して間もなく、当時の学生部長から「なんだか10年もいる人みたい」と言われて、自由な雰囲気にあふれた大学に対し、早くも私の中で本務校意識が定着していることに気づかされました。水曜日にたくさんの会議をこなした後、宿舎で夜遅くまで議論を交わしている先生方を見て、ノルマに追われる前任校との違いに驚かされました。気がつけば、同様の思いを共有する仲間と、「ジェンダープログラム」という企画に夢中になっていました。

最初の5・6年間は英米文学専攻の大学院設置準備委員として、なんとか英文学科の大学院設置を成功させたい(英文学科は3回目申請で認可)という思い

を共有した先生方との泣き笑いの日々でした。その後、外国語センターや保健センター設置、St. Norbert 大学との交流などの企画に関わりましたが、いつも同僚の先生方の熱い思いに牽引され続けました。

昨年の夏は、作家で特任教授の多和田葉子氏を中心に「都留国際文学祭」を企画し、有志の実行委員の先生方と大いに盛り上がりました。

このように振り返ってみますと、都留文科大学は常に誰かが何か新しいことに挑戦し続けてきた大学だと、改めて実感いたします。

採用時の研究領域は近現代イギリス小説でした。学生の興味の多様化に対応すべく、教員も研究領域を広げようとの議論があつたさ中、インドのデリー大学での客員教授としての経験を契機としてインドおよび南アジア英語文学研究に取り組むことになりました。ゼミでの活発な議論を交わす学生たちの能力の高さに刺激され続けた日々でした。貴重な経験を与えて頂いた都留文科大学への感謝の思いをこめ、学生たちが自信をもって学生生活を謳歌することを祈念し退職のご挨拶とさせていただきます。

## 「環コミ」での12年

都留文科大学退官教授  
社会学科

### 平林 祐子



私が社会学科に着任したのは12年前の2006年4月、社会学科が「環境・コミュニティ創造専攻(通称「環コミ」)」「現代社会(現社)専攻」の2専攻制になる1年前のことです。

所属した「環コミ」は、全く新しいプログラムと言って良く、千葉立也先生、田中夏子先生、前田昭彦先生とともに、カリキュラムや授業の中身を手探りで考え、つくっていく大変な仕事がありました。2007年には環コミ1期生が入学し、専攻所属の先生方も増え、実際に授業が動き始めました。

それから11年が経ち、来る2018年度に社会学科は「地域社会学科」に生まれ変わることになりました。「環コミ」と「現社」は、去年入学した皆さんの卒業

とともに終わりになります。

「環コミ」でやろうとしたことは、地域社会とその根幹にある環境を、どんな形にしていきたいのか一何を、誰が、どうやって、継承したり利用したり新しいことを試みたりしていきたいのか一を考え、実際に行動できる人を育てる、ということだったと思います。そのためには、既存の理論や文献からの学びと同じく、地域社会や自然環境の現場体験からの学びが重要であり、さらに色々な立場の人々と協働できる力が不可欠だ、というのが基本的な考えかたでした。

それに基づき、「フィールド体験」「プロジェクト研究」「フィールドワーク」「ワークショップ」等々の特徴的な科目を含むユニークなカリキュラムを、都留というフィールドで試行錯誤しながら運営してきたのが、この11年間であったと思います。

新しいプログラムの創造と実践に携わることができたのは得難い体験でした。そして、多くの学生たちが環コミでの4年を経て、それぞれの個性を生かし、しっかりとした魅力的な大人になったことを、本当にうれしく思います。

ありがとうございました。

## 平成29年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数
1	北海道	605	13	東京都	1,289	25	滋賀県	107	37	香川県	150
2	青森県	240	14	神奈川県	1,258	26	京都府	241	38	愛媛県	301
3	岩手県	563	15	新潟県	654	27	大阪府	468	39	高知県	84
4	宮城県	572	16	富山県	639	28	兵庫県	829	40	福岡県	222
5	秋田県	248	17	石川県	605	29	奈良県	90	41	佐賀県	82
6	山形県	349	18	福井県	514	30	和歌山県	193	42	長崎県	200
7	福島県	755	19	山梨県	3,824	31	鳥取県	159	43	熊本県	188
8	茨城県	457	20	長野県	1,174	32	島根県	229	44	大分県	111
9	栃木県	475	21	岐阜県	541	33	岡山県	395	45	宮崎県	152
10	群馬県	360	22	静岡県	1,535	34	広島県	466	46	鹿児島県	337
11	埼玉県	556	23	愛知県	1,214	35	山口県	164	47	沖縄県	218
12	千葉県	578	24	三重県	382	36	徳島県	411	48	外国・不明等	8,537

■ 支部設立済都道府県

合計 33,721

平成29年4月1日現在

# 活躍する同窓生

## 「都留の恩返し」

宮城県支部名誉顧問

**鎌田 光彦**

(昭和39年度初等教育学科卒業)



在学中、合唱団、弁論部、新聞部に所属、2年次東北県人会結成、下宿は伊勢屋、山一食堂まで徒歩2分の上天神町。卒業後即宮城県人会結成、後に同窓会宮城県支部となる。

私は、本学を卒業したことを心から誇りに思い母校を心底愛しています。従って年2・3回同窓会理事会や教採支援で、また同窓会総会には、宮城からバスで17名が「都留の恩返しの旅」の名で訪問しています。

私にとって昨年28年度は心臓が破裂するほど驚くことができました。それは春の叙勲で、はからずも教育功勞により瑞宝双光章の榮に浴したからです。申すまでもなく、今回の榮譽は、私に対しひとえに皆様からの永年にわたる温かいご指導ご支援の賜物と心から深謝しているところです。

受賞後、改めて、教育一筋「消しゴムで消えない我がたどりし道」を回顧しているところですが、思えば、経済・教育の復興が至上課題であった昭和40年4月に宮城県大郷町大谷小に新任教師として教壇に立ってから、小学校教員、派遣社教主事、泉が岳青年の家社教主事、登米市中田町浅水小教頭、仙台教育事務所生涯学習班長、富谷市日吉台小学校長、新設校塩竈市学校教育課長、仙台青年の家所長、利府小学校長と40年間慌ただしさの中に歳月を過ごしました。今静かに振り返ってみて、常に悩み、不安の連続で、これといって賞讃されるような功績はなく、「われ以外皆わが師なり」の言葉通り、人に与える事より多くの人に教えられ励まされ、支えられて何とかこの道を過ごしてきたことに感謝しているところです。

利府小校長退職後は、居住地大郷町教育長として、町民からの多種多様な広範囲にわたる意見、苦情、要望への対応処理に緊張の連続でしたが、二期8年学校教育・社会教育を通して学ぶことが多くあったことを感謝しています。

教育長を退任して1年後の平成23年3月、一瞬に

して日常生活を奪う、東日本大震災が発生し、多くの被害をもたらしたことは記憶に新しいことです。発生後、県教委から、被災した学校で緊急学校支援員として、手伝って欲しいと言われ東松島市立野蒜小で1年、24年から同市矢本東小で、子供・教師・保護者等の心の支援や授業支援に携わり、延べ7年の現在も継続しています。特に野蒜小では後輩で空手部だった鎌田清君(志波姫小校長退職後居酒屋経営)が立ち上げた地元管理職仲間のボランティアサークル「桜士」の協力で、瓦礫の中から、耐火金庫を探し、中の指導要録や重要書類、歴代校長等の写真を水洗い乾燥し整理する作業や市役所を学校に転用する準備などは強く脳裏に焼きついているところです。

更に休日を活用し、同窓会宮城の仲間50名で実行委員会を組織し、大学同窓会、合唱団60名の協力を得て23年12月は被災者の心に火を灯す「心の復興支援コンサート」を県南山下中学校と石巻牡鹿半島の東浜小で、昨年12月は、全町津波で壊滅した女川小学校(校長阿部清司同窓生)と全校児童生徒23名で29年3月閉校の大須小中学校(校長菅原佳江、教頭片岡有吾、教務本川良が同窓生)で「復興支援コンサート」を栗原・登米両市ボランティアの協力を得て行い、涙を流し合ったことも教育人生の大きな財宝となりました。

この事業を我々は「都留の恩返し事業」と呼びさらに本事業の一環で、後輩を本県教員にと毎年「都留アカデミー」を4回開催しています。今年も参加した他の大学卒も含め13名中9名が合格しました。(都留大卒は高校英語1名と大分県へ1名の2名)

昨今、教育に対する国民の関心が高まり、学校は多くの課題を抱えており次代を担う子供たちのために学校・家庭・地域・関係諸機関と連携を密に生き方、生きる力、生きがいを育てることが急務です。特に「教育は人なり」の言葉は時代がいかように変化しても不変の真理であり、教師の教育力、親の教育力がいかに大きいかを改めて思い知らされています。

今後は、地元のママさんコーラス、童謡を歌う会、町民劇団の地域活動にも意を尽くす所存です。心にしわがなく悔いなく美しく老いることは、私にとって大事業です。復興状況を見において下さい。感謝。

# 活躍する同窓生

## 都留文科大学の 思い出を胸に、 能の世界へ

渡邊 瑞子

(平成14年度国文学科卒業)



私が都留文科大学国文学科に入学したのは平成11年春のことでした。

もともと都留市の出身で、幼少のころからつる子どもまつりやムササビ観察会に参加し、構内にも出入りしていましたので大学には親近感を持っておりました。富士吉田市の富士学苑高校に進学してからは、江戸時代の風俗や文学に興味を持っていたので、文大に合格した時はこれから大好きな江戸時代の勉強ができると、とても嬉しかったのを今でもよく覚えています。

今はどうかわかりませんが、当時は学部の2年次まで一般教養と学部の基礎科目を履修し、3年次から専門のゼミに入り、各々先生方にご教示頂きながら卒業論文を書きました。

まず入学して驚いたのは、それまで高校で習っていた画一的な受験勉強と、大学の学問とは全く別の物であるという事でした。それまでの「勉強」といえば、試験で点を採るためにたった一つの正解を解答用紙に記入するものでしたが、こと古典文学に関していえば、例えばひとつの単語の意味を探るのにも、同時代はもとより先行文学の用例に拠りながら慎重に言葉を規定していく非常に地道で真摯なものでした。そのためには当然崩し字や、こんにちでは使われなくなった変体仮名も読めるようにならなければならず、字典類を買い揃え、近世文学ゼミの主催する変体仮名解説研究会や、漢文学ゼミの主催する漢文学勉強会に通い勉強しました。また、国会図書館や国立公文書館、国文学研究所にも随分通いました。今となってはいずれも懐かしい青春の思い出です。

さて、3年生となり、念願の江戸時代の文学の勉強をすべく、私は迷わず楠元六男先生の近世文学ゼミに入りました。当時楠元先生は国文学科では松尾芭蕉の「野ざらし紀行」、一般教養の授業では「隠逸の構図」というテーマで教鞭をとられており、私はどちらも受講しておりました。また先述の変体仮名研究会にも参加していたので尊敬する先生のもとで勉強

できるのは喜ばしいことでした。

薩摩隼人であられる楠元先生は心優しくも厳しい一面をお持ちの方で、学生たちには常に客観的な視点を持つこと、わたくしを捨てて作品に向き合うことの大切さを説かれておりました。当時の私はややもすれば情緒的になり、物事を自分に引き付けて考えてしまう傾向にありましたので、このような楠元先生の教えは重く胸に響きました。性分なのか今でも屢々この悪い癖が出そうになりますが、その度に自分を戒めております。

近世文学ゼミに入り忙しくしていた頃、偶然サークル(合唱団)の友人と能を鑑賞する機会を得ました。能面の静かな美しさ、煌びやかな装束、四拍子の音色にすっかり魅了された私は、「能楽師になりたい」と強く思うようになりました。当時はデフレの真っ只中、就職氷河期で、学生思いの楠元先生は高校の教員になるのがよかろうと案じて下さり、私自身もそのつもりでおりましたが、若さとは恐ろしいもので忽ち能楽師になる方法を模索し始めました。幸い、教育実習で訪れた母校・富士学苑高校の担任の先生が良い方をご存知で、人間国宝で都山流の尺八奏者故・山本邦山先生を介して現在の師、観世流職分で人間国宝の野村四郎先生をご紹介頂きました。当時野村先生は東京藝術大学の教授を務めておられ、能楽師になるには、藝大に入るのが良いと教えて下さり、少々悩みましたがまず都留文科大学を卒業した後、藝大を受験することを決意致しました。楠元先生にも相談申し上げた時には大層驚いていらっしゃいましたが、応援して下さいました。

文大を卒業後、聴講生として一年間音楽理論の授業を受講し、何とか翌年藝大に合格、入学することが出来ました。藝大は実技の大学ですので毎日稽古に次ぐ稽古、あっという間の四年間でした。藝大を卒業後は野村先生の正式な内弟子として約十年修業し、一昨年観世宗家より独立をお許し頂き、現在は観世流準職分として東京・山梨を中心に能の公演はもとより、普及のためのワークショップ、アマチュアの方の謡曲・仕舞の稽古、富士学苑中高校での部活動の指導など、活動させて頂いております。

今こうして振り返ってみますと、自分の力で成し遂げた事は一つもなく、いつもどなたかのお力をお借りし目には見えないご縁を頂きながらようやく今日の私があることをしみじみ感じます。今後もプロの能楽師として、舞台人として、都留文科大学の同窓生として恥じることはないよう、精進してまいりたいと存じます。

「都留文科大学」分かち合う言葉、分かち合う絆、分かち合う誇り

北海道支部長 加藤 佳栄

今年度も総会・懇親会は8月4日(金)ホテルサンルート札幌を会場に開かれました。道内各地から総勢19名が集い、同窓会本部からは桐井幸雄副会長(昭和32年初等教育)に運びいただく中、会が進みました。

例年総会前に行われる講演会では、今回は「気エネルギーと生活」と題し、土橋啓弘様(昭和34年度初等教育)よりお話をいただきました。ご退職後に学ばれてきた「気エネルギー」について、宇宙エネルギーとかかわりからお話をいただき、われわれも実際自分の両手で「気」や「オーラ」を観察しながらお聞きしました。

その後の総会では桐井様にホットな現在の同窓会の状況、また大学の近況については、少子化の中、母校が公立大学としてスタンスを忘れることなく、確固たる見通しの中で進めている旨をお聞きしました。

その後の懇親では、盃を介しながら各々の在学時の思い出や同窓生の近況等の話に大いに花が咲き、また会の途中では新聞で開催案内をご覧いただけたという同窓生ご夫妻(平成4年卒)のうれしい参加もあり、会が盛り上がり、尽きぬ話はその後2次会へと続きました。

桐井先輩にはお忙しい中、例年のようにお越しいただくばかりではなく、毎年開催へのねぎらいや講演会という学びの機会を持つことへの評価の言葉をいただき、われわれ一同、今後の開催に向けて益々の励みとなったところです。

結びに全員で声高らかに校歌「花のかげ」を歌い、「桂友会」の合言葉のもとに次年の再会を期し本年度の会を閉じました。

なお、次年度の総会・懇親会は平成30年8月4日(土)を予定しています。たくさんの方の参加を期待しております。

平成30年度、31年度役員(予定)

Table with 2 columns: Position (e.g., 支部長, 副支部長, 事務局長) and Name/Year/Field (e.g., 北田 則章 (昭和57年 英文)).

設立30周年 岩手県同窓会

岩手県支部長 小山田 厚

本年11月11日(土)、ホテルロイヤル盛岡を会場に第15回岩手県同窓会総会が開催されました。2年に1度の開催であり、本年をもって設立30周年となります。

論語でいう「三十而立」になぞらえ、しっかりとした歩みを刻もうと、お隣宮城県同窓会との交流会を企画いたしました。同窓会報が発行されるころには、すでに終了していることと思います。本県参加者は、若干少ないのですが、「東北は一つ」をスローガンに、まずは何かしらの進展につながればと思っています。宮城県同窓会の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当日は諸々の教員研修会の開催とも重なり、例年よりやや少ない参加者ではあったものの、福田学長をお迎えし、充実した総会を開催することができました。福田学長には、総会後、「都留文科大学の未来」と題し、特別講話をいただきました。様々な課題が山積するなか、都留文科大学の存続、発展のために、所期の大学の目的をふまえながらも、時代の潮流を見据え、改革に挑んでいる都留文科大学の現在の姿を知ることができました。

お話を伺いながら、自分が大学を受験し、学生生活を送っていたころのことを思い浮かべておりました。そういえば、今の世の中のように、大学は林立していなかったなあ、とか。都留文科大学は、国立大学よりも学費が安く、経済的な負担が少なく、家計にやさしい大学だったなあ、とか。全国各地に受験試験会場があり、受験生にはありがたい大学だったなあ、とか。少子化と呼ぶにはほど遠い



時代だったためか、倍率がやたらと高かったからヒヤヒヤものだったよなあ、とか。(1970年代後半に学生生活を送った者の独り言です)

ところが現在、日本には数多くの大学が存在し、しのぎを削っている状況の中にあります。そんな折、都留文科大学では、教員免許状取得の幅を広げたり、学科再編に取り組むなど、大きな改革がなされている様子を、時代の流れとはいえ隔世の感を禁じ得ません。

特に、グローバルな人材育成を目指し、これからの大学を創造していこうとする福田学長のお話に、思わず力のこもった拍手を送る岩手県同窓生一同でありました。「そうだよな。時代に必要とされる人材育成のための、その一歩こそが、今こそ大切なんだよなあ。」三十年を迎えた本同窓会と重ねながら、その一歩の大ききさについて、考えさせられるのでした。

総会、それに続く福田学長の特別講話、そしてその余韻を引きずりながら、懇親会へと場が進んでいきました。懇親会も大いに盛り上がり、最後は恒例の万歳三唱。空手道部かつ「黒部荘」出身、高橋節夫先生の発声で第一部が締めくくられました。

第二部は、場所を移して、これも恒例の岩手大学教職大学院 准教授森本晋也(愛媛県出身)先生紹介の某スナックにおいて、懇親が引き続き行われました。

気がつくくと、なんと、もうこんな時間、翌日?当日?が心配なあんな時間。福田学長とホテルへと千鳥足状態でたどりついたのでした。

お忙しい中、北東北はイーハトーブの地、岩手県まで足を運んでいただいた福田学長には、大変感謝申し上げます。どうぞ、お体にはご自愛いただき、都留文科大学の発展のためにご尽力いただきたいと思います。岩手県同窓会一同、福田学長はじめ教職員の皆様方を応援しております。

不肖、都留文科大学岩手県同窓会会長谷村町駅にほど近い「博学荘」(現在はビジネスホテルになっています)かつ少林寺拳法拳士会出身 小山田厚が、思いを織り交ぜながら、同窓会の様子をお伝えいたしました。

つるの恩返し

宮城県支部長 伊藤 常治

震災の年、そして昨年度、都留文科大学合唱団による被災地支援コンサートが開催されました。合唱団の歌声は、明るさの中にも気品があり、まるで光の線が体育館いっぱいに広がるようで心が洗われました。

こうしたご恩に報いようと、宮城県支部は、3月4日に「道の駅つる」の東北復興支援イベントに参加し「蒸し焼き牡蠣」のお手伝いをしました。さらに、8月5日の都留文科大学同窓会定期総会には、「つるの恩返しバスツアー」を組み、16名が参加しました。あの時のままの「川藤」「風来坊」など、バイトでお世話になった方々への恩返しの旅にもなりました。

さて、宮城県支部は、毎年2月第一土曜日に総会を仙台市のホテル白萩で開催しています。昨年2月には、福田誠治学長、原喜雄同窓会長、山形支部の佐藤支部長をはじめ県外からも多数の参加があり、51名で交流を深めました。

また、「教員採用選考対策学習会」では、9名の合格者を出し、例年以上の成果を挙げることができました。

宮城支部の活動は親睦であり恩返しです。鎌田清氏の経営する「きまみや」で、あれこれ計画を立てこれからも親睦を図っていきます。

【平成29年度役員】

Table with 2 columns: Position (e.g., 名誉会長, 顧問) and Name (e.g., 鎌田 光彦, 小野 俊次).

Table with 2 columns: Position (e.g., 支部長, 副支部長, 事務局長) and Name/Year/Field (e.g., 菊池 繁子, 久我 博子).



### 設立 25 周年記念「べにばな会」総会に集まろう

山形県支部長 佐藤 英樹

全国の同窓生の皆様方におかれましては、ご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成5年に設立され山形県支部同窓会「べにばな会」は、今年で25周年の節目を迎えることになりました。

山形県内を4つのブロックに分け、2年に1回の総会・懇親会を持ち回りで開催してきており、今回で13回目の開催となります。今回は設立25周年を記念し、多くの同窓生が集い、楽しく語らえる機会となるよう企画したいと考えております。期日は、平成30年11月に村山地区の担当で開催を予定しております。多くの同窓生の皆さんに参加いただき、「べにばな会」の更なる発展につなげていける機会となるようご協力願います。

平成29年の支部活動をご報告いたします。

2月4日、宮城県支部総会に白林和夫・原田清一両副会長と3人で出席いたしました。東日本大震災を契機に「東北は一つ」というスローガンのもと相互交流を行っています。鈴木雄二前会長から「勉強になるから是非参加するように」という言葉のとおり、宮城県支部の活動と総会のすばらしさに感動と刺激をいただきました。今後の支部活動に生かしていきたいと思えます。

4月22日には大学の同窓会に出席し、県出身在校生に教員採用試験の情報提供と激励を行いました。白林副会長に資料を作成いただき、行政職の私が説明するという変則な指導でありましたが、2名と

も合格されたといううれしい知らせを聞いております。最後に支部役員を紹介します。

#### 平成 29・30 年度役員

- 顧問 武田 茂之 (昭和 54 年度卒・初等教育)
- 会長 佐藤 英樹 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 副会長 白林 和夫 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 同 原田 清一 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 会計(監事) 菅野 洋子 (平成 13 年度卒・初等教育)
- 理事(幹事)・村山地区 小川 秀人 (昭和 55 年度卒・国文)
- 同 鈴木 雄二 (昭和 55 年度卒・国文)
- 同 和泉 一彦 (昭和 58 年度卒・国文)
- 同 白林 和夫 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 同 渡邊 隆 (平成 4 年度卒・初等教育)
- ・最上地区 武田 茂行 (昭和 54 年度卒・初等教育)
- 同 佐藤 成美 (昭和 54 年度卒・国文)
- 同 佐藤 敏幸 (平成 8 年度卒・初等教育)
- ・置賜地区 神尾 正俊 (昭和 55 年度卒・国文)
- 同 佐藤 英樹 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 同 菅野 洋子 (平成 13 年度卒・初等教育)
- ・庄内地区 奥山 広幸 (昭和 57 年度卒・初等教育)
- 同 原田 清一 (昭和 60 年度卒・初等教育)
- 同 若月 力 (平成 4 年度卒・初等教育)
- 同 中條 秀基 (平成 20 年度卒・初等教育)

### 茨城県支部の近況

茨城県支部長 長岡 省一

同窓生の皆様におかれましてはご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、平成29年4月から、有村架純さんがヒロイン役を演じる、本県を舞台にしたNHKの連続テレビ小説「ひよっこ」が好評のうちに終了したところですが、ご承知のように、平成29年

10月に発表された都道府県魅力度ランキングで、茨城県は5年連続最下位となりました。こうなると私の周辺では、「中途半端に順位が上がるとこのまま最下位を続けたほうが、かえって注目度が増すのではないかな。来年はV6

を狙おう。」という気運が高まっています。

本題ですが、平成29年11月26日(日)に、水戸プラザホテルにおいて、茨城県支部同窓生の交流の集いを開催しました。残念ながら役員のための7名の出席となりました。まず最初に支部長から、大学で開催された平成29年度同窓会理事会について報告し、大学の現状と今後について情報の共有をしました。次に、一昨年度まで支部長をされていた宮内健治顧問に感謝の花束を贈呈し、10年に及ぶ支部長としてのご活躍の労をねぎらいました。その後、一人一人自己紹介をして、近況報告をしました。今回は参加者全員が教職員ということで、教育に関する話題で大変盛り上がりました。また、それぞれ在学当時の都留に思いをはせながら、懐かしく当時を振り返っていました。あっという間に時間が過ぎ、今回の同窓会での再会を約束して散会となりました。

今後も支部会員同士の交流の輪を広げ、活発な活動を行っていただけるよう支部の充実にも努めますので、支部会員各位のご協力をお願いいたします。

- 顧問 宮内 健治(昭52国)
- 支部長 長岡 省一(昭56英)
- 副支部長 井坂 雄爾(昭61初)
- 理事 武田 真一(昭57英) 新井田由美(昭62英)
- 石川 順子(平元国) 野口 修(平元英)
- 関野 昌彦(平6年) 赤荻佐知子(平8国)

### 教員採用試験に向けた学習会を開催！

群馬県支部長 齋木 雄造

群馬県支部では、平成28年8月19日(土)に高崎市労使会館において本県教員採用試験第2次選考に向けた学習会を開催しました。当日は、4月に本県の新採用教員として活躍のスタートを切った小学校教諭の小島花野先生、中学校教諭の永田将也先生(ともに平成28年度卒業生)にご出席いただき、採用試験に向けた取組や試験内容とともに、実際の教師として日々取り組んでいる教育の仕事の重みなどについて、貴重な体験に基づいた講話を行っていただきました。参加した2名の学生さんにとっては、教職の道を切り拓いていくうえで大変有意義な時間となりました。また、学生のみなさんの求めに応じていつでも連絡を取り合えるネットワークづくりもでき、大きな収穫になりました。群馬県支部では、今後もこのような事業を通して学生のみなさんの支えとなる役割を果たしていきたいと考えています。

さて、今年、群馬県支部は創立10周年を迎えることになりました。そこで、下記のとおり、今この節目を飾る総会・

懇親会の開催に向けて準備を進めています。同窓生の皆様にとってお忙しい折とは存じますが、予定に加えていただければ幸いに存じます。当日は、都留を語り合い、語り尽くしましょう。

- ・日時 平成30年8月19日(日) 17:30
- ・会場 高崎ワシントンホテルプラザ

#### (群馬県支部役員)

- 顧問 角田 達夫(昭50英)
- 支部長 齋木 雄造(昭53国)
- 副支部長 熊川 稔(昭50英) 原 俊明(昭60英)
- 事務局長 島田実恵子(昭45初)
- 監事 金沢 和子(昭55英) 土屋 勇(昭58英)
- 庶務 池澤 博子(昭57初) 安藤 貴子(平6初)
- 江原 悠一(平11英) 古川 整(平12社院)



平成30年を見据えて

埼玉県支部長 西 敬

前支部長の<渡邊哲郎先生>から職を引き継いで5年目を迎えることになりました。その間、支部長として数回、同窓会報にも寄稿させていただきました。会報の掲載資料からは、埼玉県登録の同窓会会員は500名を超えております。引き継ぎ時の不手際で、ここ数年は会員名簿の確認を進めてきましたが、現在は滞っております。さて、この会報(36号)に目をとめていただいた埼玉県登録の方で、ご協力いただける場合には、お手数でも以下のアドレス(埼玉支部長連絡用)にお名前と卒業年度を件名にいらしていただき、空メールを送信してください。いただいた情報をもとに支部から直接連絡(セキュリティーフォームを送付PW保護)させていただきます。

今後は同窓会本部様のご支援のもとに、同窓会旗作成を機に平成30年の支部運営を始動いたします。

※個人情報管理には十分留意してまいります。

※同窓会ブログにも、類似のお願いしています。お時間のある時にアクセスしてみてください。

埼玉支部 miyamae-eky@tokorozawa-stm.ed.jp

(上記のアドレスは30年3月末までです)

～師走 県西部地区の公立小屋上より～  
「秩父連山を越えて聳える 秀峰 富士」



29年の「埼玉県・・・一つのニュース」

8月、さいたまスーパーアリーナを中心に「教頭の全国大会」が埼玉県で開催されました。都道府県の数と考えると、2回目なのではないでしょうか。全国からお集りの教頭先生方をお世話しながら、「都留文科出身」の方を見出そうとしていました。大学時代は旅立ちの準備です。人生を展開するステージはまた別ののでしょうか。出身大学と就職先で同窓会を取りまとめることは難しいと再認識しました。同窓会への誘いは、桂川の芋煮会のように「だれともなく自然に集う」ニュースから始まるのだと、年齢60を前に思う今であります。(支部長・・・雑想より)

『都留』への支援ネットづくり

千葉県支部長 川名和則

「千葉支部結成20周年記念総会」及び懇談会も福田誠治学長の御講演のもと、盛大に挙行することができましたこと、関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

福田学長からは、新たなグローバル時代に逞しく生きる人材づくりの一環として国際バカロレア(IB)の教育プログラムに対応した日本で初めての教員養成課程、『国際教育学科』の設立趣旨や現在、大学が求められている課題は何かなどを御教授いただきました。改めて御礼申し上げます。

今や少子高齢化社会の日本の中で、視野が広く、探求心旺盛で柔軟性のある人材育成は喫緊の課題であります。福田学長の明朗で誠実なお人柄、大学の現状の御紹介、大学の夢、そして、これからの大学の公正、透明性のある情報公開とは何か等、を学ぶことが出来ました。今後とも、全国の同窓生、同窓会への御支援、御鞭撻、宜しく御礼申し上げます。

さて、『道の駅つる』(都留市大原)が、一昨年、リニア見学センター近くにオープンし、都留市の物産品を販売するだけでなく、全国組織の同窓会支部お薦め商品を、「期間限定のリレー方式」で、販売できる体制をつくりあげました。既に、静岡、宮城、千葉・・・と、軌道に乗って好評を得ていると伺っております。

ります。

また、平成30年2月には、『首都圏都留市会』が設立される予定です。この会は、都留市と首都圏の情報をお互いに発信しながら、人と人の人的ネットワークを構築していくことで、元気なふるさと『都留』の実現を目指していますので、千葉支部も積極的に応援していきたいと考えております。

このように、都留市民、都留市出身者、都留市にゆかりのある人々が手を携え、お互いの情報を積極的に交換し、親睦と交流を図ることにより、「ふるさと都留市の更なる発展に寄与できる絶好の場」となることが期待されます。

今まさに、北海道から沖縄までの日本全国、3万人の都留文大同窓生が知恵を絞り、『都留市』並びに『都留文科大学』が、益々発展できる支援ネットづくりをしていこうではありませんか。



東京都支部の近況

東京都支部長 松本多加志

同窓生の皆様方におかれましてはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成29年9月3日に平成29年度都留文科大学同窓会東京支部総会が開かれ、平成29・30年度の支部役員をご承認いただきました。全員力を尽くして参ります。ご支援をよろしくお願いいたします。

総会に引き続いて行われた懇親会は、多忙な中、大学より阿毛久芳副学長、本部から加藤一雄会長及び桐井幸雄副会長、そして興石東元参議院副議長にご臨席いただきました。

ご来賓の皆様方からいただいた「都留大の新たな取り組み」「今後の同窓会の取り組み」「これからの教育の在り方」等々の貴重なお話は、参加者にとって、学生時代を振り返り、自身の思い出や生き方等を基とした懇親会での話題のきっかけとなり、同世代の旧交を温めると共に、各世代(20～70歳代)相互の絆を結ぶ有意義な会となり、本支部の今後の発展に繋がる礎になったものと信じております。



<平成29・30年度東京都支部役員>

- 支部長 松本多加志 (昭44)
- 副支部長 黒田 賀代 (昭32) 長沢 和子 (昭43)
- 橋本 秀夫 (昭44)
- 庶 務 奈良 覚 (昭45) 榛原 紀子 (昭58)
- 田村 聡 (昭62) 西村 学徳 (平12)
- 会 計 矢野 優 (昭47)
- 会計監査 松田 篤郎 (昭42) 岡部ひとみ (昭52)
- 相談役 桐井 幸雄 (昭32) 小林わか子 (昭31)
- 福元 弘和 (昭42) 岩木 晃範 (昭42)

### 都留の町探訪と合唱団定演観賞

神奈川県支部長 松下登志男

神奈川県支部としては初めての企画として、12月10日に開催された「合唱団第52回定期演奏会」に合わせて「都留の町を訪ねる」ツアーを開催しました。

合唱団は今年も全国大会で金賞第1位を獲得し、9年連続金賞に輝きました。

シリア内戦の取材中に銃弾に倒れた山本美香さんの「僕の村は戦場だった」からの曲など、感動のステージを堪能させていただきました。到底言葉に表すことができない、本当に美しいハーモニーでした。メンバーが毎年入れ替わる学生の合唱団で、毎年素晴らしい成績を取め続けることの偉大さ、指揮の清水先生を始め指導の先生方のご尽力、学生の努力、チームワーク、全ての面で完璧な合唱団であることに、同窓生として誇りを感じながらうぐいすホールを後にしました。

演奏会の前に参加者はそれぞれの思い出の地を訪ねて都留の町をゆっくりと巡りました。下宿先が空き地になっていて残念だった者、建物がそのまま残っていて大家さんの親族にお目にかかることができた者、仕送りが届いたときだけ月に1度の贅沢をした思い出の食堂、谷村町駅近くの旧校舎があった場所などそれぞれに懐かしい思い出がよみがえり、すっかり40年前・50年前に戻って若返ると共に、また新しい思い出を作るこ

とができました。

演奏会の終了後には、国際交流会館にお邪魔して、支部の交流会を開きました。交換留学生のための施設があることなども以前には想像することすらできなかったことで、改めて大学の躍進ぶりを実感しました。

留学生のお世話をされている小林さんやチューターとして活動されている学生さんのお話を伺うこともできました。参加者は自己紹介と共に学生時代の思い出を語りました。「体育の授業はほとんどグランド整備作業だった」「器楽クラブという小学校のようなサークルしかなかったので、マンドリンクラブを立ち上げた」「合唱団は『メサイア』の演奏会を毎年行っていた」「旧校舎と新校舎を往復した。たんぼ道だった」などなど話は尽きず、予定の時間を大幅に超えて交流会を終え、来年も12月第2日曜に再会することを約束して帰路に着きました。多くの心に残る出会いがあった充実と感動の一日でした。

この時期は、現役の先生にとって2学期末で成績評価などで最も忙しい時期ですので、演奏会には行きたいけれど参加できないという声もたくさんありました。可能ならば来年度の県支部総会に合唱団の皆さんにおいでいただき素晴らしい歌声を披露していただきたいという願いを持っています。昨年の総会にはマンドリンクラブに来ていただきましたので、来年はぜひ合唱団の演奏をお願いしたいと思います。県支部会員の皆さまの総会ご出席をお待ちしています。

### 「友情」をテーマとした講演会一朗読一

富山県支部長 高木要志男

11月18日(土)の午後、富山市で総会と講演会を開催しました。当日は、あいにく、北陸特有のしぐれの日となりました。参加者は23名と少ない人数ではありませんでしたが、若手教員の皆さんも参加してくれました。教員採用学習会の卒業生の参加があることは、富山県支部同窓会にとっては心強い限りです。

第一部の総会に先立ち、富山県支部設立に多大なるご尽力をいただきました初代支部長の岡本哲明先生のご逝去を悼み、全員で黙祷を捧げました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

総会では、本年4月22日に本学で行われた理事会の報告をさせていただきました。平成28年度庶務報告及び事業報告、平成28年度会計収支決算報告、平成29・30年度同窓会役員改選、平成29年度事業計画・予算等が議決・承認されたことについてお伝えしました。また、福田学長から国際バカロレア教育、履修漏れがあった経緯等の説明があったこともお話ししました。

その後、本支部の事業報告・決算報告等についてもご報告し、承認していただきました。小さな支部ですが、本学同窓会と歩調を合わせ、組織的に運営していきたいと考えています。

第二部の講演会では、鈴木優子氏による「講話」と「朗読会」を行いました。言葉はわたしたちの生活において他と通じ合う上で何よりも大切にしているもので

す。また、作品の味わいや奥深さを表現する朗読は、心の琴線に触れ深い感動をもたらします。

鈴木氏は、10年以上、学校・サークル・PTA教養講座等で朗読会を行ってこれています。毎年の定期朗読会では会場が満席になります。心から心に伝えるということはどういうことなのか、言語生活上、ことばはどういう働きをしているのか、わかりやすくお話してくださいました。最近では、小学校から依頼され、国語の授業で子どもの発言にある感じ方、見方などをアドバイスされていらっしゃいます。

富山県支部同窓会に参加される方々の年代層は多様ですが、どんなにも関心のあるお話でありますし、とりわけ現職の皆さん方に朗読の世界を味わってもらい子どもたちの教育に活かしてほしいと願っての企画でした。

鈴木氏には事前に「友情」をテーマとして作品を選んでいただきました。当日のプログラムを紹介します。山本周五郎作「友のためではない」、小山薫堂作「スタンドアローン」、木村裕一作「ふぶきのあした」、浜田広助作「泣いた赤おに」です。涙を流して聴いておられる会員もいらっしゃいます。心で聴く姿にほかなりません。

第三部の懇親会では、和やかな雰囲気でお互いの近況を語り合いました。先輩と後輩、同年代同士で食事を共にしながら過ごしました。

本学の発展と会員の活躍・健康また、次回の再開を祈念して閉会としました。



### 福田学長と加藤同窓会長をお迎えして

石川県支部長 西田良治

あいにくの雨模様の午後、山根公氏(S41年国文卒)を案内人に、遠路はるばるお越しいただいた福田学長先生以下13名にて、金沢市内浅野川周辺の文学散歩を催した。代表作「高野聖」で有名な文豪泉鏡花生家跡を起点に、蕉門十哲立花北枝の源意庵跡を見学、次に川端康成書「金沢文学の故郷」碑を見て、北陸新幹線開業で大勢の観光客で賑わう東茶屋街へと向かう。目指すは金沢三大仏の一つ釈迦如来像(約4.8m)のある蓮昌寺(日蓮宗)。木造仏は元禄年間の作で、蓮昌寺は鏡花「緋紅新草」の舞台にもなったお寺です。さらに浄土宗玄門寺の寄木立像阿弥陀



仏(約8m、光背まで入れると12m)を見学、しばし住職の講話に聞き入りました。今日は、金沢三大仏の内二大仏を拝観、一同感激のひとつときでした。

夜の総会・懇親

会では、冒頭福田誠治学長先生から大学の現状と今後の目指す大学像についてお話をいただいた。初等教育を志望する学生が年々減少し、時代の先を見据えた学科構想等のお話を聞きし、卒業後30年以上を経て大きく変容していく都留大に感慨ひとしおであった。また、加藤一雄同窓会長様からは、キャリア支援室の一員として主に教員を志す学生に、校長としての経験を生かして指導に当たっておられることを伺い、心強く感じることも、石川県の教員採用試験に対して毎年実施している模擬授業や面接指導等私たちが協力を惜しまない旨お伝えしました。

20余名の参加者であったが、遠来のお二人を交えお酒を酌み交わしながら様々な意見交換ができたことは、大きな喜びであった。

会の終わりには、「花の影」を全員で歌い、さらには「武田節」で懐かしい故郷山梨を遠く偲んで再会を期しました。



### 福井県支部「城山会」平成29年度総会を開催

福井県支部長 吉岡恒雄

今年度の支部総会を、11月18日(土)に嶺南の敦賀で開催しました。当日は、冬の訪れが間近なことを感じさせる生憎の雨模様でしたが、県内全域をはじめ県外からの参加者も含め、31名の会員が集まりました。

総会の前に、研修として「人道の港敦賀ムゼウム」を見学しました。命のビザで有名な杉原千畝と、ビザを携えて船から降り立ったユダヤ人難民と敦賀市民との心温まるエピソードが展示されており、係員の説明に熱心に耳を傾けました。

続いて訪れた「赤レンガ倉庫ジオラマ館」は、鉄道模型を中心とした昭和初期の敦賀の街並みが再現されており、ノスタルジックな気分になることができました。



総会は懐かしい学生歌「花のかげ」の斉唱で始まり、活動及び会計の中間報告が承認されました。続いて新役員を紹介します。一人ずつ抱負を述べました。その後の懇親会では、参加者の近況がユーモアを交えて語られるなど、大いに盛り上がりました。今回何より嬉しかったのは、

初めて参加する会員が多数おり、交流の輪が広がったことです。このように、今後とも「城山会」が、世代を超えた会員相互の交流の場、また都留と福井とを繋ぐ架け橋になっていければと思います。

#### 〈平成29・30年度役員〉

- 会 長 吉岡 恒雄 (S55卒)
- 顧問 西出 健一 (S51卒)
- 副会長 福田 修 (S58卒) 高木紀美子 (H2卒)
- 監 事 荒木 基裕 (S54卒) 酒井 晴美 (S62卒)
- 庶 務 山本 岳宏 (H11卒)
- 会 計 入江 啓子 (S52卒)
- 理 事 石田 則男 (S55卒) 千田 佐 (S56卒)
- 二宮 東子 (S57卒) 野村すずえ (S61卒)
- 松田 透 (S60卒) 青木 哲哉 (H3卒)
- 前田由美子 (H元卒) 田辺 隆幸 (H13卒)



### 山梨県支部の活動状況

山梨県支部長 千野文雄

私は、昨年8月5日(土)、全国同窓会に先だって開催された山梨県同窓会総会において、平成29・30年度の支部長に選出されました。よろしくお願いたします。

さて、活動状況の報告ですが、本支部では、毎年恒例の「教員採用試験二次試験対策会」を7月30日(日)に本学内において開催しました。対策会には、一次試験を通過した現役学生と卒業生の20名が参加し、個人面接や集団討論等を実施する中で学習を深めました。開催にあたっては、同窓会本部のご支援を得ながら、本会役員や本学キャリア支援センター等の関係者、また昨年度めでたく採用され学校現場で活躍を始めたばかりのフレッシュな4名を講師としてお招きしました。第1部では、開講式後採用試験を突破した4名に、二次試験に向けての自身の体験談や対策等を発表していただきました。面接や集団討論の心構えをはじめ、情報収集の仕方や面接ノートづくり等、分かりやすくお話いただきました。午後開催した第2部では、代表者による模擬授業と集団討論、模擬面接を行いました。予想問題や個人面接の質問等を通して、参加者一人ひとりの教育観や指導観、児童・生徒観が語られるとともに、教師を目指そうとする熱意が熱く感じられました。今回の対策会は、参加者が互いに学び合う場としてだけで

なく教師の道を歩もうとする更なる決意の場となったようです。

また、前後しますが、5月13日(土)には本学キャリア支援センター主催の模擬面接体験会が開催されました。全体会に続き、午後からは例年と同様、各県ごとの開催となりましたが、本県では21名の学生が参加し、模擬授業や3グループに分かれての集団討論を実施しました。講師は、大学及び本県同窓会役員を中心に7名が勤めましたが、学生達の真摯に学ぼうとする態度に応えるべく真剣勝負で臨んでいました。

ここ数年の退職者の増加に伴い、採用者数も増え、広き門になりつつあるとは言え、本県にあってはまだまだ厳しい状況に変わりありません。教員を志望する学生達が夢を実現できるよう、これからも同窓会として取り組んでいきたいと思います。

#### —平成29・30年度山梨県同窓会役員—

- 会 長 千野 文雄 (中巨)
- 副 会 長 石井 正巳 (北都) 一瀬 英治 (西八)
- 事務局長 笹本 忠彦 (中巨)
- 事務局次長 小山田拓也 (中巨) 笠井 正宏 (南都)
- 支 部 長 廣瀬 文武 (東山) 岩間 好久 (笛吹)
- 内藤 郁夫 (西八) 若林 四郎 (南巨)
- 千野 文雄 (中巨) 窪田 芳博 (北巨)
- 奥脇 隆樹 (南都) 石井 正巳 (北都)
- 小宮山 尚 (甲府)

### 第6回長野県支部総会を開催しました

～長野県のだ真ん中、上諏訪温泉にて～

長野県支部長 小林久通

本支部は6年前に、堀内敏明前支部長の奔走により、全国で36番目の支部として発足しました。会員数は1208名です。

本年度の支部総会・懇親会は、10月21日(土)に福田誠治学長様、加藤一雄同窓会長様にご出席いただき、諏訪市上諏訪温泉の諏訪湖ホテルにて行いました。今年は、長野県内各地から



25名の参加がありました。総会では本年度と来年度の役員紹介、事業報告・計画及び決算報告・予算案が承認されました。総会の中で、お忙しい中ご出席くださった、

福田誠治学長様と加藤一雄同窓会長様から、大学の現状と今後の展望や同窓会の活動についてのご講話をいただきました。大きな変革の時期を迎えながらも、大学が力強く変貌・発展している状況をお聞きすることができました。総会に引き続いて行われた懇親会では、本支部の特長である幅広い年代層が集まり、それぞれの時代の都留大を語り合い、年代を超えた思い出話に花が咲きました。楽しく盛り上がった時間も瞬間に過ぎ、来年の再会を約束して散会となりました。

来年度は、中信地区で10月の第3土曜日に開催予定です。今後も、北信→南信→中信→東信の順に広い長野県を巡りながら、幅広い年齢層の同窓生が気軽に集まり、親睦を深めることができる長野県支部にしていきたいと思います。昨年度の総会で改選・承認された役員です。

#### 【平成29・30年度長野県支部役員】

- 支 部 長 小林 久通 (1982年卒 初)
- 副支部長 塩澤 忍 (1983年卒 国)
- 同 下島 一道 (1986年卒 初)
- 監 事 市場香代子 (1985年卒 英)
- 事務局長 岩崎 朗 (2001年卒 初)

### 岐阜県支部の近況

岐阜県支部長 山本吉朗

#### ○役員会の開催

岐阜県支部は、平成29年は隔年おきに行う役員会を開催しました。総会に代わる役員会なので、内容としては、総会で行うものと同じです。

昨年の事業報告、収支決算報告の質疑応答と承認のあとで、次の、事業計画、収支予算計画の承認を行いました。その後で今後の支部組織のあり方や活動について、又、情報発信のための支部会報の発行やブログの作成とそのPRのあり方などについての意見交換をしました。

#### ○卒業生への二次試験対策の実施

ここ3年間、岐阜県では2名ずつの卒業生が教職に就いています。彼らは、毎年行われている理事会の後の地域別懇談会に参加した卒業生達です。

懇談会では、教員になるための資質や教員になったときの必要な取り組みなどと岐阜県の求める教員像などについて話しました。懇談が終わると連絡に必要な携帯電話の番号を交換しました。彼らは、一次試験の結果が判明し合格が分かると連絡してくれています。

今年は、8月3日に一次試験合格の知らせが届きました。早

速、校長や教育委員会を経験した同窓生と教育委員会に勤務している同窓生に依頼をして二次試験対策の資料を基に指導してもらいました。

その後、二次試験の結果を待っていました。10月3日に無事合格したという連絡がありました。早速に二次試験の講師をしてくれた二人の先輩に結果を知らせると共に役員にもその結果を報告しました。また、大学のキャリア支援センターにも報告をしておきました。



#### ○平成29年度 岐阜県支部役員

- ・顧問 細野 矩義 ('66卒)
- ・会長 山本 吉朗 ('65卒)
- ・副会長 清水 久司 ('78卒) 藤井 幸子 ('69卒)
- ・事務局長 佐藤 眞治 ('72卒)
- ・庶務 村井 一男 ('79卒) 香田 静夫 ('79卒)
- 古川 一男 ('81卒) 梅田 典利 ('91卒)
- ・監事 河合 均 ('84卒) 山岡 一信 ('84卒)

### 都留での出会い

静岡県支部長 白井 泰

本年度も役員会を開いただけで支部総会が実施出来ませんでした。平成30年10月20日頃、静岡市近辺を会場にして総会を開く予定であります。役員会では東部・中部・西部での支部会を多く開催し、お互いの動静を把握していく旨、確認し合いました。県内の同窓会員の皆様、万障繰り合わせて是非ご出席下さい。

※下記連絡先にご連絡いただくと有り難いです。

「在校生との懇話会」で毎年十数名の教員志望の学生とお話しているのですが、下田高校(旧下田北高)出身の4年生に会いました。やはり下田出身と聞くと親近感が持てます。さらに個人的なことです、小生学生時代は軟式テニス部と方言学研究会に所属しており、当時の仲間とは出来るだけ連絡を取り合っています。9月には福井県勝山市で西出健一ご夫妻(福井県元支部長・奥様も都留文大卒)の歓待を受け、参加者13名楽しい一時を過ごしました。また、5月の「模擬面接試験体験会」の折には講師をされた島根県のOさんと同宿しました。帰宅して

「ソフトテニス部OB会員名簿」を見ましたら、なんと17代にその名が載っていました。次回お会いできることを楽しみにしております。さらに8月の同窓会総会(2年に1度開催)では、宮城県支部より多数の参加があり、宿舎での懇親会で参加者のご主人がわが部のOBであることがわかったりして、参加してよかったと思った次第。

また、前号にも書きました「道の駅つる」での全国各地の特産品を販売する企画ですが、下田の干物販売の後、宮城県・千葉県の特産物と進み、8月の同窓会総会の折に合わせて?第2弾を開催していただきました。



平29役員会 三島にて

- (連絡先) 西部・大場孝純-0538-35-4779  
 中部・江川初枝-054-292-2231  
 東部・星屋 康-090-1289-0902  
 白井 泰-090-2185-8147

### 第13回愛知県支部(富岳会)地域交流会

愛知県支部長 長尾 隆

#### ○県支部の課題

県内を8地域に分け、それぞれが懇親会や研修会を通じて支部の活性化を図っています。交流会は各地域の取り組みを共有し、5年に一度開かれる県総会の準備を行っています。ただ、現在各地域の現役会員が徐々に減少し、また大学卒業生がなかなか採用されないという実態を抱えています。この危機に対して、愛知県支部としては、12月9日に行われた地域交流会で、参加された会員へ提案を行いました。その内容は

- (1) 現役卒業生や講師の情報を集める。
- (2) 採用1次試験前に、各地域で学習会を開き支援をする。
- (3) 愛知県下の1次試験合格者を集め、2次採用試験の学習会を行う。

というものです。29年度にも実際に行った結果、若干採用者が増えました。

今回の交流会は岡崎市で開かれ、30名の参加者が集い、とても楽しい会となりました。

#### 《平成29年度県支部組織》

- 支部長 長尾 隆 (名古屋 57初)
- 事務局長 竹内 義信 (名古屋 58初)
- 地域幹事 名古屋 水野 修司 (61英)
- 新城 設 楽 後藤 康仁 (58英)
- 知 多 榊原 孝彦 (57英)
- 西 三 河 平岩 康彦 (58初)
- 海 部 平野 豊 (56初)
- 東 三 河 岩瀬 雅洋 (57初)
- 尾 張 各務 泰 (58初)
- 豊田・みよし 杉浦 俊孝 (58英)



12年目の支部活動

三重県支部長 福田和幸

支部総会は8月26日、津市の三重県教育文化会館で26名の参加を得て開きました。前年度比6名増に役員は安堵しました。

毎年、総会議事の後の企画に腐心しますが今回は講師招聘をやめて各自が持っている「都留の思い出」を交換することに。今回の参加者は昭和40年卒から平成12年卒までと、その幅35年の開きを越えて思いを共有するねらいです。小学生のお子さん



を連れての参加もあり、会場の空気を一層和ませてくれました。

パワーポイントにまとめた2年前の支部企画「母校を訪ねて」の写真説明と最近の大学紹介のDVDを見て、久々に歩いた都留の町

の変貌ぶりと僅かに残る下宿の跡訪問など個別の体験を紹介し合い、各々が共通する思い出の糸をたぐり寄せました。

また、同窓会本部での理事会の報告では、学部増設と学科再編、新設の国際教育学科の情報など進化する母校のニュースに注目しました。

本県では相互のつながりを生むために12のブロックに分けて世話人を置いています。各ブロックでの情報交換や交流を進めることが課題です。また、今後の課題は、切れ目のない若い年代の参加を得るためには新卒者の情報提供を大学や同窓会本部にお願したいという声も上がりました。他県支部の活動を参考に今後も新しい取り組みを探っていきたいと考えています。

H29年度三重県支部役員

Table listing the executive members of the Sanriku Branch for H29, including Chairman, Vice Chairman, Secretary, and Treasurer.

滋賀県支部結成4年目 第4回支部総会と懇親会を実施

滋賀県支部長 松嶋孝雄

滋賀支部が結成されて、4年目を迎えることができました。平成29年8月11日に草津市内のホテルにおいて、事務局長様のご尽力により、第4回の滋賀支部同窓会総会と懇親会を開催することが出来ました。

私たちが現役時代とは違い、現在の現場の先生方は、8月とはいえ大変忙しい日々を送られているようです。そうした事情によることが多いのでしょうか、残念ながら公務・私事の多忙により、出席できないという返事が多いことが大変残念です。

例年参加者が少なく、大変残念な思いもします。さらには、お世話いただいている滋賀支部事務局・大学事務局の方々に、会長として非力であることを申し訳なく思っています。しかしながら、毎年初めて参加くださる方があることは、喜ばしいことです。



滋賀県支部役員

Table listing the executive members of the Shiga Branch, including Chairman, Vice Chairman, Secretary, and Treasurer.



京都府支部第4回総会と懇親会

京都府支部長 柘谷雄三

12月2日(土)に総会と懇親会を行いました。今回はかねて要望のあった府内北部の福知山市で行いました。

役員会で候補地を挙げ、北部の方も打ち合わせ、2月の役員会で実施地を決定。『城山・桂川だより』第5号(29年3月31日発行。毎年、春に発行。全会員に郵送。A4版8ページ)と、9月発送の往復はがきで会員のみなさまにお知らせしました。

当日は、事務局長の労作の小冊子(総会資料とともに欠席者からのメッセージや「花のかげ」「武田節」を掲載)と大学から取り寄せた資料が配布されました。



総会が終わり、懇親会・二次会と続き、都留の下宿のこと、友のこと、京都の教育のこと、今の生活のこと様々な話に花が咲き、終わることが惜しまれました。

20名の参加者から、次のような感想が寄せられました。

- List of feedback comments from participants, including appreciation for the meeting and the venue.



福知山から京都市へ向かう2時間の電車の中で、北部から役員会への参加には、この時間以上を使って駆けつけてくださっていることの大変さを感じました。

Table listing the executive members of the Kyoto Prefecture Branch, including Chairman, Vice Chairman, and Secretary.

但馬の小京都「出石」にて第27回兵庫県支部総会開催

兵庫県支部役員 加谷 誠

平成29年度、第27回兵庫県支部総会を6月17日(土)に、但馬の地で県下7年ぶりに開催しました。

今回は、但馬の小京都といわれる歴史の町「出石」に県下各地から足を運んでいただきました。

第1部は、豊岡市出石振興局のホールで総会が行われました。会場のすぐそばに出石城址があり、自然に恵まれた静かな雰囲気の中、平成28年度事業並びに会計報告、役員紹介、平成29年度事業計画・予算案が提案され、全会一致で承認されました。また、大学の現状報告などがありました。

次の第2部は、今回の研修テーマを「出石を見て、知って、感じて」もらうと決め、出石の史跡めぐりを企画しました。町の名物ガイドの川見章夫氏の案内による「出石城跡→永楽館→辰鼓楼」のコースで町歩きをしました。中でも永楽館は、近畿最古の芝居小屋であった建物を10年前に復活させ、こけら落としとして歌舞伎役者の片岡愛之助さんが出演し、それ以来連続で公演が続き好評を博している。永楽館の内部見学をさせていただき、上方歌舞伎の様式を今に伝える貴重な造りに感動しました。

続いて第3部は、そば処「出石城」に場所を移して懇親会を行いました。参

加者は31名、名物の出石そばを堪能していただきました。各地区ごとに参加者の紹介が始まり、大学時代の思い出話や楽しい近況報告など、大いに盛り上がりました。最後に次回開催の丹有の理事さんのおいさつで締めくくり、1年後の再会を約束してお開きとなりました。

では、会員の皆様の一人数でも多くの次回参加をお待ちしています。

平成29年度役員

Table listing the executive members of the Hyogo Prefecture Branch for H29, including Chairman, Vice Chairman, Secretary, and Treasurer.



支部旗の下に

奈良県支部長 岡田 善英

今年も8月27日に学園前の中国料理店『銀座四川』にて、第6回奈良県支部総会を開催しました。今回は支部にとって記念すべき総会になりました。それは、会員が長年待ち望んでいた支部旗を披露できたからです。旗の入った箱を開けて会員の前で広げると、思わず歓声が上がりました。ブルーとオレンジの鮮やかな生地に奈良県支部の文字が映える支部旗を、会場の壁に掲げて終始和やかな総会になりました



した。支部旗の作成に際しては、大学同窓会事務局の方々に大変お世話になりました。終始懇切丁寧なお力添えをいただきました。心から感謝申し上げます。また、嬉しいことに昨年よりも参加者が増えました。今回の参加者の中には、つい10年前に大学を卒業したはつらつとした青年の姿もありました。ともすれば古き良き時代の話題に偏りがちな懇親会に、新しい息吹を吹き込んでくれたようにも感じられ、今後も支部旗の下に集う仲間の輪がさらに広がることを期待せずにはられません。

平成29年支部役員

Table listing branch officers for Heisei 29: 名誉会長 瀧川 佳市, 会長 岡田 善英, 副会長 高橋 強, 山本 泰彦, 監事 石田 好庸, 理事 西尾 八千穂, 辻 明彦, 米田 悦子.

和歌山県支部の近況

和歌山県支部長 前田 忠

全国の同窓会支部として、平成28年2月20日39番目の同窓会組織が誕生しました。産声を上げて早や2年目になりますが、全国の先輩支部に比べてこれからと言うところです。支部活動の根幹は、三役会を中心に必要に応じて役員会を開催して、会の充実に努めています。具体的な活動については会誌を発行したりして活発に啓発しています。若い人々の支えが大切であるため、平成27年度28年度卒業生に組織への加入と後輩現役生へのサポートに向けた協力を依頼しました。支部総会は、2年に1度となっているので、本年度が総会実施予定年です。総会では組織の発展と充実を願って会則の見直しや、役員の充実を計りたいと思っています。また、組織として、北部・中部・南部の3分割での小規模ブロックの活



動の充実も今後の課題です。

三役会や役員会は、現職を離れた人の出席率がいつも100%であるが、現職役員の参加状況が難しいことも課題の一つです。日程を考慮して(土曜日等)いるのですが、やはり現職会員は多忙のようです。

今後も、先輩支部の活動状況を参考にしながら盛り上げていきたいと思えます。

和歌山県支部役員

Table listing branch officers for Wakayama Prefecture: 支部会長 前田 忠 (S45 度初), 副会長 根田 渡 (S47 度英), 副会長兼紀中ブロック長 廣田 千鶴 (S50 度初), 事務局長兼紀北ブロック長 谷口 博保 (S51 度初), 監事 小左古 治 (S45 度英), 監事 木浦 憲一 (S46 度初), 庶務兼紀南ブロック長 和田 靖子 (S52 度初), 庶務 山入 邦雄 (S46 度英), 庶務 廣田 敬則 (S55 度初), 庶務 前田麻唯子 (H18 度英), 庶務 北出 雅也 (H25 度院).

鳥取県支部の近況

鳥取県支部 山本 英明

平成29年11月23日(木)、倉吉市にて、都留文科大学同窓会鳥取県支部総会ならびに懇親会を開催しました。

総会では、4月に行われた理事会における都留文科大学の現状と今後の取り組みについての報告、支部の活動・会計等についての報告、役員の大改選や今後の活動等についての承認がされました。

総会後の懇親会では、家族旅行の途中に都留市を訪れ、大学周辺を撮影した写真をスライドショーで紹介された会員があり、大学施設の充実や都留の町の様子等を知るよい機会となりました。近況報告では、懐



かしい学生時代の思い出、仕事や地域での取り組み、健康や趣味に関する話題等で、時間が足りないほどでした。最後に、会員の「数学パズル(手作り)」のプレゼントが加わり盛り上がりました。年代を超えて、交流を深めるひとときを過ごすことができました。

今後も大学と連携し支部活動を充実させるとともに、会員の輪を広げ、会員同士の交流をより活発にしていきたいと思っています。

毎年、支部総会は勤労感謝の日を予定しています。今回は、平成30年11月23日(金)に開催予定です。今回参加できなかった皆さんの次回の参加をお待ちしています。

平成30・31年度 鳥取県支部役員

Table listing branch officers for Tottori Prefecture: 会長 古都 英幸, 副会長 岡田 栄子, 藤井 幹裕, 監事 俣住 文章, 名越 潤, 事務局長 真島 順子, 庶務 米村 立郎, 西田 智貴, 小坪 宏成.

支部設立13年目を迎えて

島根県支部 大島 英明

平成29年8月26日(土)に都留文科大学同窓会島根県支部の総会ならびに懇親会を開催しました。役員会→総会と隔年ごとに開催していますが、今回は8名の参加となりました。

総会では、役員会のメンバーの若返りを図り、世代交代を考えていかななくてはならないのではという話題が出ていました。

私事ではここ数年、採用試験対策講座の講師として毎年都留に行かせていただいております。都留とのつながりを持つことができ、大変うれしく思っています。今年度は、私が担当する学生さ



んがおらず、採用試験の模擬授業についてのコメントをするという経験をさせていただきました。その後、初めて泊まった大学会館では、テニス部の大先輩と一献傾け、懐かしいお話や現在取り組んでいることのお話など楽しいひとときを過ごさせていただきました。

このような経験をたくさんの方に経験していただこうということで、総会等にはいろいろな方に参加してもらおうという話も出ています。今後も島根県支部の活性化を考えていきたいと思っています。

以下、現在の役員を紹介します。

◎島根県支部役員(卒業年度)

Table listing branch officers for Shimane Prefecture: 顧問 木村 晴男 (S44), 支部会長 小藤 貢 (S45), 副会長 服部 哲郎 (S44), 榎野 博巳 (S45), 飯島 良子 (S53), 理事 寿 慧信 (S42), 池田 稔 (S43), 伊藤 博 (S44), 大島 英明 (S59), 事務局長 大島 英明 (S59).

### 14年を迎えた岡山県支部

#### 岡山県支部長 原田直樹

私ども岡山県支部は設立14周年を迎えております。支部活動を充実させるべく、創意工夫をしているところですが、若年層の参加が今一歩であり、今後、後継者を育てていくためにもこれが喫緊の課題と受け止めています。本部の御支援を引き続きお願いいたします。

平成29年2月11日に公立学校共済施設「ビューリティまきび」で支部総会を開催しました。掲載の写りが総会参加者です。

残念ながら、前年度を上回ることができず、7名の参加となり、敬老会のごとき記念撮影となりました。来年度こそは画面いっぱい若き顔ぶれが加わることを期待して、案内状にも工夫を凝らして送付します。

同窓会報により、母校の現在を見るにつけ思い出すのは若き日の谷村での喜怒哀楽、それを肴に懇親のひとときを皆さんと語り合っていたと思っています。

毎年支部総会は2月11日頃を予定していますので多くの方々の懐かしいお顔をお見せください。若手の会員の参加を心待ちにしてい



#### 【岡山県支部役員】

- 支部長 原田 直樹
- 副支部長 菱川 徹
- 理事 野崎 博子 岩城 孝志 中野 元雄 坂上 信二
- 監査 川口與志継 岩崎 美幸
- 事務局長 野崎 博子
- 事務局 岩城 孝志 岡本 智江

ます。今後の岡山県支部発展のためには若い皆さんによるパワーアップが必要です。本部からも、卒業したらぜひ支部長宛に連絡をくださるよう今一度お声かけ願います。年代を越えて同窓会を盛り上げましょう。

### 温故知新で 明日を 築かん

#### 広島県支部長 小谷桂司

今、思う「温故知新」。新たな年に活かしたい。

支部活動も本当に少しずつ、牛歩の如くである。

例年、大学で行われる4月の同窓会理事会後の懇談会・交流会、5月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在学生との懇談・情報交換会で、お会いした人から今年も「採用決定」のお手紙を戴きました。また、毎年3月末、新聞報道に掲載される広島県(市)の人事異動の中の「新規採用者」の欄に、あのお会いした人の名前を見つけ出した時は、「都留文大・都留市で、学んだこと」を活かしてくれる人が「広島に帰って来た」と。

在校生には、大学で行われる4月・5月の会合に多数の参加を望みたい。そして、広島に帰って来て、「新たな風を」と願っています。



さて、今年の県の総会の場を広島市にて平和公園周辺・元安川でのリパークルーズや折り鶴タワー(オバマ元大統領の折り鶴?)、広島風お好み焼など企画したのですが。

総会参加者を増やすためにも、まだまだ、工夫をと考えています。佳き未来に託すためにも。

戊戌 犬が如くに 攻守持し 温故知新で 足跡 築かん 桂 歴代

#### 平成29年度役員

- 顧問 金久 睦彦 中西 正一
- 会長 小谷 桂司
- 副会長 目崎 仁志
- 事務局長 二宮 正
- 理事 田丸 正美 宮本 仁 山城 義明 玉山 洋
- 猪原 憲三 本宮 達弘 土橋 義信 三永 政幸
- 池田 桂子 島本 智子 福間 武志 吉貞 至誠
- 監査役 白石 隆 五葉木輝正
- 監事 山中 護 田辺 恵子 兼丸 裕子 安藤 正弘
- 奥窪 尚昭 未房 朋子

### 支部結成24年目を迎えて

#### 徳島県支部長 小倉健司

徳島県支部は平成5年に結成され、平成29年度で24年目を迎えております。これからも大学の発展に寄与できますよう、また、支部が充実していきますよう活動を活性化させていきたいと思っています。今後とも同窓会本部の皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年8月10日に、ホテルグランドパレス徳島にて、都留文科大学同窓会徳島県支部総会ならびに懇親会を開催しました。掲載の写りが本年度の参加者です。

総会において、都留文科大学の現状と今後の方向性(①補講問題②受験生の減少と2018年問題③国際教育学科の新設④キャンパス計画等)の報告や在学生との懇話会の伝達をしました。そして、今後の活動計画・予算・役員等の報告について承認されました。また、大学の施設も充実してきていることや真面目な学生が多く、住みやすい環境であることから、自分の子どもや他の受験生にも都留文科大学

への進学を勧めること等の確認をしました。

総会後の懇親会では、初めに全員で学生歌「花のかげ」を声高らかに歌い、それぞれが学生時代にかえたよう、出席者の心が一つになりました。自己紹介を兼ねての近況報告や都留での学生生活の様子や部活動・サークル活動・ご指導いただいた先生方とのなつかしい思い出話が飛び出し、卒業した年度や都留で過ごした時間はそれぞれ違いますが、大学や都留への思いは、みんな同じなんだと確信いたしました。

出席者も昨年より増え、20代から都留文科大学創立当時の同窓生も出席され、世代を越えて都留の地に思いを馳せることができ、有意義な時間を過ごしました。

今回は、平成30年8月の開催予定です。たくさんの方の同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。



### 同窓会総会への参加者増を目指して!

#### 長崎県支部長 平山繁壽

平成29年7月22日(土)に、「平成29年度の長崎県支部同窓会総会」を長崎市のセントヒル長崎で開催しました。今年も6名の出席者でしたが、新たなメンバーが参加してくれました。総会では、次のことを決定・確認しました。

①平成29年度の役員

支部長:平山繁壽(昭和44年度卒)島原市  
TEL:0957-62-2998 携帯:090-8915-9131  
事務局長:渡邊 林(昭和45年度卒)南島原市  
TEL:0957-72-5359

②次年度の総会は、平成30年7月28日(土)午後6時30分から、セントヒル長崎で開催する。

③地区支部を設置し、代表者と事務局を置く。  
・事務局が決定していない地区は選出をする。  
・地区ごとに会員の住所の確認をし、組織拡大を図る。特に開

催地区の長崎市は、確認作業のさらなる強化・拡大を図る。  
(地区代表者及び事務局名)\*太字は代表者

地区名	確認数	代表・事務局		
長崎	4	江口 匡彰	藤崎大吉郎	尾崎 威敏
佐世保	19	柴田 高明		
諫早・大村	1	川口 良輔		
島原半島	17	渡邊 林	西田 正人	
五島	4	明石 仁	牟田 茂博	
壱岐	5	西谷 徳道	坂口 隆	
対馬	2	平山 俊章		

④次年度の総会案内状は、住所確認ができた会員全員に「はがき」を出し、地区の代表及び事務局で集約し、県事務局(渡邊林)に連絡する。  
\*平成28年から、地区の代表者及び事務局が、名簿に記載している会員に連絡を取っていますが、地区間移動等で電話が繋がらなったり住所が変わったりしているため、連絡がとれていない会員が多数います。まだ連絡が来ていない同窓会会員の皆さん、「県支部長」及び「地区代表等」又は「他地区の知っている人」に連絡をしてください。  
現在も会員名簿の確認作業を続けています。



風林火山

熊本県支部 池田由美

大学を卒業して29年になります。教職経験年数も同じです。小学校教諭、小学校教頭を経験し現在は熊本市教育センターの主任指導主事をしてい...

都留文科大学同窓会熊本県支部役員会

- 平成29年7月22日(土)
1 平成29年度都留文科大学同窓会理事会報告
①29年度予算案：熊本県と宮城県に被災地支援活動費が計上。
②在学生との懇話会：教員採用試験対策についての助言。
③「道の駅つる」事業：都留市長から被災地・熊本の特産物販売協力の依頼。
2 熊本地震支援金の配付状況について
3 役員改正(案)について
4 都留文科大学同窓会熊本県支部記念誌の作成について
5 同窓会報「第36号」の執筆者について
6 平成30年度熊本県支部総会の開催について
日時：平成30年10月28日(日)正午予定
7 その他
高倉利孝氏の上天草市教育長就任祝いについて高倉利孝氏(昭和46年卒・副会長)の上天草市教育長就任祝賀会は10月1日(日)に執行部を中心に行いました。...

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長 取附義弘

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成9年10月25日に結成しております。本年は、隔年開催としている支部総会及び懇親会を去る8月5日(土)にホテルひまわり荘において開催しました。総会に先立ち、記念講演「剣豪、井上延陵の生涯」を、昭和63年入学 社会学科 古川久師氏より行っていただきました。氏は、在学中から温めていた、本県延岡出身の剣豪「井上延陵」について小説「延陵伝」として出版しております。
講演内容
江戸末期、日向延岡藩の豆腐屋に生を受けた「井上八郎清虎(延陵)」は、江戸に出て北辰一刀流の門を叩く。剣豪としての数々の業績を打ち立てた八郎は、幕臣になり幕末明治の風雲を舞台に、才能と努力で、幕府の為、日本のために大仕事を成し遂げる。抜きんでた



剣の実力と、政治家としての行政手腕を併せ持った稀有の人物でありました。千葉周作、海保帆平、勝海舟、山岡鉄舟、近藤勇、清河八郎、坂本龍馬、西郷隆盛、徳川慶喜、明治天皇、...、綺羅星のごとき幕末、明治の英傑たちとの交流を通して、激動の時代と、知る人ぞ知る、延陵のドラマチックな生涯を描いております。
昨年は「井上延陵生誕200周年」にあたりました。延陵が城代として明治初期に活躍した浜松では業績を知る人もいますが、生誕地延岡では、文献も少なく忘れられた存在になっています。生誕200周年を機に広く延陵の業績を知ってもらいたいとの氏の思いが伝わってきました。さらに、青年のころ廻国修行を行い、甲府の釜無川で一揆に切り込みをかけたエピソードなど山梨との深いかかわりも披露していただきました。
総会ではご参加いただきました方々に、ご意見や知恵を戴き、議事も式次第によりスムーズに進行することが出来ました。総会後の懇親会では、福田学長様からのメッセージや大学の近況に、都留の町並みや思い出の数々、町中を駆け下る清流や登山からの眺望を脳裏に浮かべながらの歓談に花が咲き大いに盛り上がりしました。
今回の総会にご都合がつかず、欠会を余儀なくされた方々に、再来年(2019年)の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせていただきます。

鹿児島県支部総会・懇親会開催

鹿児島県支部長 本田武久

第18回(平成29年度)支部総会・懇親会を10月28日(土)、午前10時から鹿児島市のホテルで開催しました。
総会では、会務報告・役員承認(新たに事務局を設置、局員2名を当てる)後、研修を実施しました。当地のラジオ民放局MBC(南日本ラジオ放送)の最年長アナウンサーでタレントの猪俣睦彦氏(通称ムッチャン)に「かごつま大世間話(うげけんばなし)」というテーマで講話をお願いしました。軽妙な鹿児島弁での語りにより1時間半の研修は短く感じられました。
午後は恒例の懇親会。今年度の参加者は昭和39年度卒業が最高年齢(77歳)で最年少の平成26年度卒業の25歳までの38名でした。女性11名の参加もあり和やかに会食できました。現職の会員が半数以上であり、今後も都留で学んだ絆を大切に連携を深めていこうと確認しました。
特筆すべきは、高校籍の会員から「今年は本校から3名の卒業生を都留に送ります」との発言があり、参加者から大きな拍手が起こりま

した。少子高齢化が進む中で、地方の一高校から3名の同窓生が誕生することは大変嬉しいことです。憧れの先生の学んだ大学で自分も同じ道を目指したいという決意をさせた後輩現職会員を誇らしく思うことでした。
約4時間の交流は、あっという間に終了してしまいました。大学の更なる発展と同窓会の今後の充実を願いながら散会しました。
支部長 本田 武久(昭43年度卒)
副支部長 植村 和信(昭45年度卒)
副支部長 大山 典男(昭45年度卒)
事務局 水流 広之(昭55年度卒)
事務局 中村 智子(平元年度卒)
監事 値 弘光(昭41年度卒)
監事 平澤 泰明(昭41年度卒)



沖縄支部結成20周年を過ぎて

沖縄県支部長 比嘉正夫

1997年8月30日に県支部が結成され早20年が過ぎました。約18年間で初代支部会長の金城広安氏、事務局長の伊波聡氏を中心に老若男女がそろって支部活動が行われてきました。尽力された皆様に感謝致します。現在2代目の役員体制に移行し活動を模索しているところです。2代目会長を引き継いだ私比嘉正夫はこの約2年間、大学での理事会や同窓会、現役学生との話し合い、各支部長との懇談などに参加し、大学経営の大変さを感じるとともに、その中で我が都留文科大学が学長を中心にして特色ある大学に変化しつつ、発展し、未来に希望を感じることができ大変にうれしい限りです。それとともに同窓会として大学を支援することの難しさも感じます。同窓会の在り方もこれから変わっていく面が出てくるかもしれません。
しかしながら都留はやはり我々卒業生がまぎれもなく一人一人が様々な青春の4年間以上を過ごした様々な感情を持つ場所

です。このことは、これからも続いていくことに間違いありません。それぞれの支部で活動を黙々と続けながらお互いの交流を深めつつ大学の若き学生たちの援助もさらにできるように工夫をしていきたいと考えます。
現在の県支部役員は複数体制で助け合いながら進めていけるように考えられ出発しています。
会長 比嘉 正夫(S53 英)
顧問 金城 宏安
副会長 伊波 聡
理事 天顔 亮 儀間由紀乃 親川 光倫
事務局長 親川 光倫(H17 国)
副事務局長 金城 生
会計 山入端秀章(H20 初)
副会計 前大 梨瀬
事務局員 金城 生 仲地 星夜
会計監査 徳本真理子 比嘉真貴子

## 新学部「教養学部」の新学科「学校教育学科」と「地域社会学科」の開設にあたり

教養学部設置準備室 室長 阿毛久芳

平成30年4月1日、教養学部の学校教育学科と地域社会学科がスタートします。平成27年7月から始まったプロジェクトA(大学改革)の作業部会で、初等教育学科と社会学科の改編への検討が進み、それを受けて平成28年4月より新学科設置準備室が活動を開始しました。準備室において名称を含めた学科構想による3ポリシーの確定とカリキュラム作成が立案されました。併せて2学科を統括する新学部の名称と学部構想が検討されました。その結果、教養学部のもとに学校教育学科と地域社会学科を設けることが決まったのです。

文部科学省へは新学部、新学科の設置届の書類作成とともに、2学科の教職免許課程認定の申請書類を作成し提出することも課せられていました。

学校教育学科においては、今まで文学部初等教育学科の枠では難しかった中学校課程を、教養学部置くことで可能になり、今回、理科と数学の教科が免許課程に加わりました。小中一貫教育に対応し、国文学科、英文学科、地域社会学科の教員免許と合わせて、国語・数学・社会・理科・英語の中学主要5教科の教員免許の取得が可能になりました。平成27年4月には小学校英語の教科化に対応した英語系を開設しており、平成28年4月に始まった特別支援学校免許課程と合わせて、学ぶ領域や課程が広がったのです。

地域社会学科においては、社会学科の現代社会専攻と環境コミュニティ創造専攻の2専攻体制から、学んだことがどのような方向に進むことになるのかを明示する4コース制(地域経営、公共政策、環境社会、教育・文化)へと変更しました。

「地域社会学科」の名称は、実は社会学科の出発時点において掲げることが意図されていました。しかし「地域」という名称は当時学科名としては認知されておらず、次善の名称として社会学科としたといういきさつがあります。地域社会学科は社会学科の原点ともいえる名称なのです。現在は状況も変化し、「地域」の名称のついた学部、学科は、たとえば地域創造、地域政策、国際地域、地域創生等々存在します。それだけ出発期の先生方の「地域」に対する意識が先進的であったともいえるでしょう。コースの中には国際政治、国際経済の演習も置かれ、グローバルの要素も織り込まれています。

教養学部については、「特定の分野での深い専門性と幅広い見識に基づいて、複雑な課題を解決するための新たな価値を創り出せる能力・姿勢」を「創造力につながる教養」と定義し、ここを原点として「社会の諸課題を俯瞰的・構造的に理解すること」、

「課題の解決策を構想し、それを具体的な実践・行動に移すことができること」、「多様な環境・文化の中にある社会のプレーヤーと適切なコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことができること」を目指しています。「理論と実践の往還する教育内容の整備や充実化」を具体的なカリキュラムの構成に生かそうとしています。平成29年7月31日、『朝日新聞』に「2018年4月 教養学部開設 教員養成の伝統をグローバル人材の育成に」ということで一面広告を出しましたが、その際北斎の「富嶽三十六景 品川御殿山の不二」の桜が描かれた浮世絵とともに、「創造の力、いま満開」という言葉を掲げたのは、「創造力につながる教養」と連動していることを強調するためです。

「創造力につながる教養」とは、もちろん物知りとして教養があるわけではなく、知識を血肉化したものとして具体的な場面で活用する知恵を求めているのであり、教育の場、公共の場をはじめとして、あらゆる社会の場においてこの「創造力につながる教養」が必要とされている、という確信から来ます。

2学科の3ポリシーについては、ホームページから確認できますが、学校教育学科のディプロマポリシーにおいては、「本学の小学校教員養成が伝統としてきた人格の育成と深い子ども理解、学童期から思春期における子どもの変化過程への理解を理念とし、教職に対する高い使命感と確かな教育観・子ども観を身につけた」教師像を高らかに掲げています。また地域社会学科のディプロマポリシーにある、地域理解力、構想力、行動力、協働力の4つの能力を伸ばすところに集約される社会人像は、併せて教養学部がどのような方向に進むかを示すことになっていると思います。

国際教育学科の学生は2021年3月に、学校教育学科と地域社会学科の学生は2022年3月に卒業式を迎えます。「菁莪育(せいがいいく)才(さい)」の学訓がますます重みを増す思いです。

同窓会の皆様にはこれまでも大学を強力に支えてきてくださいましたことに感謝しますとともに、大学のこの新たな挑戦に更なるご支援をお願いいたします。

## 5号館の完成

### ◆都留文科大学5号館の特徴

5号館は、既存校舎と同じく赤レンガ調タイルを基調としたデザインとし、東側に隣接する3号館、南側に位置する附属図書館と壁面を揃えることで、キャンパス全体としての調和・一体感を高めるようにしました。

各講義室は、移動可能な机や椅子を配置し、その組合せによって一斉授業やグループ学習、ディベート形式の授業など、多様な学習形態に対応できる環境となっています。

各階の廊下に連続したコモンズと呼ばれるエリアは、学生が能動的に学ぶアクティブラーニングの場として様々な家具備品が置かれグループワークや自習が行える空間となっています。

各講義室と廊下の間仕切りは、ガラスパーティションを採用し、講義室内の活動が廊下側からも感じられるものとなっています。これは、アクティブラーニングに沿った考えであり、講義室やコモンズといったエリア内で、他の利用者がどのように学習しているのかを見ること・見られることによって、学びの相乗効果を期待できるものです。

講義室の外壁側は、床から天井までのガラス窓を採用し、自然採光や開放感に配慮した明るい講義空間としています。5号館2階からの外部通路は、3号館2階及び附属図書館に通じており、5号館と既



存建物間の移動の利便性に配慮したつくりとなっています。

3階には留学生に日本の文化に触れていただくための和室を1室設け、室名は、都留市が芭蕉ゆかりの地であることから、芭蕉の別号で、桃が青いと書いて、「桃青」とすることといたしました。この別号は、芭蕉自身まだまだ未熟であるという意味が込められていることから、今後の本学の更なる発展を願って和室の室名としました。

### ◆5号館1階展示絵画紹介

寄贈者：佐藤 祐治（さとう ゆうじ）

絵の題名：海風の村（うみかぜのむら）

絵の内容：イタリア北西部のリーグリア海岸に



位置する5つの村の総称をチンクエツレといい、世界遺産にも登録されています。この絵は、そのうちの1つの村、ヴェルナツアを描いた

たものです。青い海に突き出た一角に城壁の塔が残り、又海岸に降りると入江を囲むように歴史を感じさせる家々が林立している様子が描かれています。

佐藤祐治さんは、昭和42年に本学文学部国文学科を卒業、さらに昭和43年初等教育学科聴講生を卒業。東京都教育委員会・東京都町田市小学校に採用され、平成15年に退職するまで教育に携わっていました。洋画家として、平成5年に日展で入賞されて以降、これまで示現会展では、文部科学大臣賞など様々な賞を受賞され、現在は、一般社団法人示現会理事、また日展の審査員、現在は会員として活躍されています。

## 体育会

平成29年度体育会  
会長 小野田 和真

早春の候、都留文科大学同窓会員の諸先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。



平成29年度体育会基本方針「稔る」の下、体育会本部並びに各部活動が精進して参りました。今年で44回目を迎えた鶴鷹祭では去年に引き続き、高崎経済大学の2連覇で幕を閉じました。しかし白熱した試合を通じて両校の友情、親交を深めることができました。

また関東甲信越大会を初め、各部のリーグ戦など

の試合では、多くの優勝や昇格という成績を収めました。各部がこのような成績を収めることができたのも、ひとえに先輩方の多大なご支援ご協力があったのことと思っております。常に感謝の気持ちを忘れず、これからも我々体育会一同、より一層精進してまいりますので、今後も都留文科大学体育会をよろしくお願い致します。



平成28年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位：円)

Table with 6 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 収入済額, 備考. Rows include 入会金, 終身会費, 繰越金, 基金繰入金, 寄附金, 雑入, 収入合計.

◆支出の部

Table with 6 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 支出済額, 備考. Rows include 事業費, 会報発行費, 支部助成金, 支部設立準備金, 新入学祝費, 支部旗作成費, 教員採用試験学習会費, 被災地支援活動費, 会議費, 総会費, 理事会費等, 同窓会本部費, 事務費, 運営費, 慶弔費, 本部役員活動費, 寄附採納, 積立金, 予備費, 支出合計.

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高額)
¥14,764,036 - ¥10,917,219 = ¥3,846,817

◎積立基金の内訳(見込)

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 平成27年度末現在高, 平成28年度末基金取崩, 平成28年度中積立金(財政調整基金), 平成28年度中積立金(大学創立記念事業基金), 計.

基金の内訳

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 財政調整基金, 財政調整基金取崩, 大学創立記念事業基金, 大学創立記念事業基金取崩, 計.

文化会

2017年ー2018年文化会
会長 矢口 岳

「文化会活動報告」

同窓会の諸先輩方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成29年度文化会では、合唱団が「第70回全日本合唱コンクール」におきまして、金賞、文部科学大臣賞を受賞する大変優秀な成績を取ることができました。また、吹奏楽部も山梨県代表として「第23回西関東吹奏楽コンクール」に出場し銀賞を受賞するなど優秀な成績を取っています。その他のクラブ・サークルも精力的な活動を行っており、一例としては、アカデミック+のメンバーが「第7回城西大学英语スピーチコン



テスト」で最優秀賞である城西大学理事長賞を受賞いたしました。また今年度は新規に7団体が文化会に加盟しており、さらなる活躍が期待されています。

文化会本部につきましては諸先輩方からの伝統を引き継ぎ、飛躍を目指して行きたいと思っております。

こうした活躍もひとえに諸先輩方のご支援があつてのことと考えております。これからも文化会へのご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。



同窓生からの近況報告

「悠悠たり去来に任す」

金子 康信

S35年都留短大卒・S37年都留文大卒の同期生の会。学窓を去って58年を経過したが、未だに同期会を実施して旧情を温め合っている。諸橋轍次学長の遺訓「菁莪育才」から「菁莪」を頂戴し、同期会を「菁莪会」と命名して今日に至っている。「菁莪会」という会報を年に一回発行し同期の共に発送している。過ぎし学生時代の思い出に耽ったり、それぞれの人生を語り合う場として、同期生ひとりひとりの思いとそれを支え合う心が強い絆となって長く続けてこられた。

現職の悩みや活動の心意気、人生を語り、近況を話し合い、お互いを刺激し合う同期会となっていた。長く勤務した職場から離れて一人になった時、心の淋しさが人を恋しくなり嘗て学舎で生活した学友が懐

かしくなり、会って心を癒したいと思うようになって同期会の参加者が増えた。毎年11月に河口湖畔の宿で一泊二日の同期会を実施しているが北海道から沖縄までの全国から約30名の参加者があり有意義な会となっている。この会「菁莪会」の友は減ることはあっても増えることはない。会員の年齢は77才～84才に達しているが、今在るを喜び健康に留意して長く続けていきたいというのが会員の願いである。



第17回都留文科大学・短期大学(菁莪会)

※同窓生の皆さんの近況報告をお寄せください。お待ちしております。

～ふるさと都留市の輪をひろげよう～

都留市ゆかりの会「首都圏都留市会」設立へ

●● 会員募集 ●●

都留市では、市出身者や都留文科大学の卒業生等の都留市とゆかりのある方々が、ふるさと都留市への想いをつなげ、首都圏に在住する会員の皆様と都留市民とが互いに親睦を深め、都留市の発展・交流の拡大につながるため、平成30年2月に『首都圏都留市会』を設立しました。

県外で活躍中の都留市ゆかりの方々との交流を広げたい方、都留市を盛り上げたいという方はぜひご入会ください。

また、首都圏を中心とした地域にお住いの方にも「首都圏都留市会」をご紹介します。

◆活動予定

- ▽各種イベントへの参加（毎年開催のまつり等）
  - ▽広報PR活動（市外在住者向け）
- ふるさと時代祭り（八朔祭）等の案内・交流年数回、市広報誌等の市内情報を送付

◆入会方法

都留市ホームページ、又は都留市役所本庁2階総務課に備え付けの入会申込書に必要事項を記入し、年会費（個人1,000円、法人10,000円）を添えてお申し込みください。

※遠方の方はメール・FAXでも可。年会費の納入方法は総会時での納入、または振込用紙を送付いたします。

◆申し込み・問い合わせ 「首都圏都留市会」事務局（都留市役所総務課秘書担当）

電話：0554-43-1111 FAX：0554-43-7992 mail：soumu@city.tsuru.lg.jp

氏名・住所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担でお願いします。

1 ホームページ

- (1)ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページURL：<http://www.tsuru.ac.jp>

- (2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届を行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード：tbdh2206

(半角英数)※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

- 2 E-mailにて送信 E-mail：dousokai@tsuru.ac.jp

- 3 FAX・郵送  
〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛  
TEL 0554-43-4341 内線 206 FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありますらご連絡ください。同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧ください。

掲載は本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会ブログ]をご参照ください。

# 都留の町並み（大学周辺）



うぐいすホール



大学上空より



やまびこ競技場



4号館



3号館



図書館



美術棟



大学前交差点



第一クラブハウス棟



大学会館



都留文科大学前駅



児童相談所（オレンジロードより）

お知らせ

2016年11月5日に山梨県都留市大原地区にオープンいたしました「道の駅つる」では、公立大学法人都留文科大学連携企画として、「都留文科大学同窓会」とのコラボ企画を随時開催し、全国にある同窓会との連携による地域の「おすすめ逸品」を紹介し販売しております。

都留文科大学では、現在39都道府県に各同窓会支部が設立されており、会員の相互の親睦と母校の発展に寄与するための活動が行われています。

学生生活の4年間をこのまちで過ごした3万人を超える同窓生は、現在では47都道府県に在住し、地域や各界で活躍しながら、全国的なつながりを持っています。

この企画では、全国の同窓生が、「第二のふるさと・都留の方々にぜひ食べてほしい!」と自信を持ってお勧めする各地の「美味しいもの」をピックアップして随時開催しております。

●オープンよりこれまでに、次の5回のコラボ企画が盛大に開催されました。

- 第1弾(2016.12.26) 静岡県支部(干物) 第2弾(2017.3.4) 宮城県支部(牡蠣まつり)
- 第3弾(2017.6.17) 千葉県支部(クジラ・びわ・スイカ) 第4弾(2017.12.23) 福井県支部(かに)
- 第5弾(2018.1.13) 熊本県支部(柑橘まつり)

今後も引き継ぎ、同窓会とのコラボ企画を開催いたしますので、是非お立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。開催される企画の詳細については、道の駅つるのホームページをご覧ください。

道の駅つるホームページ URL : <http://www.1000nentsuru.com/>